

2016年5月2日

みずほディーラーズアイ (2016年5月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 103.50 ~ 109.50

国際為替部 為替営業第二チーム 尾身 友花

■ 先月の為替相場

4月のドル/円相場は月初にかけて下落し本年度の安値を更新した。月後半にかけては日銀への緩和期待から一時持ち直すも、月末の日銀会合にて金融政策が据え置かれた為、反落した。

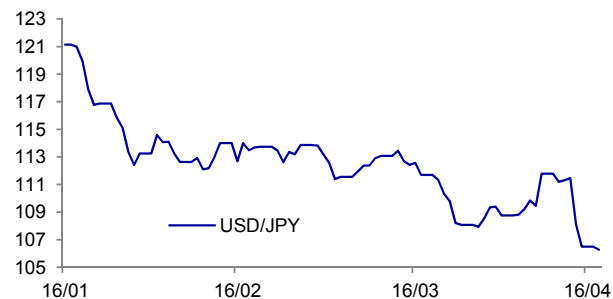
月初は、3月末からのドル売りの流れに円買いが加わったことでドル/円は下落した。米3月雇用統計では非農業部門雇用者数変化が予想比増加するも、失業率の上昇などを受けてドル/円の上昇は限定的となった。日経平均株価や原油価格が下落したことを背景にリスクセンチメントが悪化し、5日(火)安倍首相による発言「通貨安競争は回避すべき」が取り上げられ、円買いが強まったことでドル/円は110円を割り込んだ。6日(水)FOMC議事要旨にて更なるインフレ低下懸念、および4月早期追加利上げに対する反対意見が確認されたことでドル売りの流れが継続し、ドル/円は11日(月)には本年度安値107.63円まで下値を拡大した。この間、本邦政府高官により円高けん制発言が相次いだがドル売り円買いの流れは反転せず、相場への反応は限定的となった。

月中盤は、原油価格安定を背景にドル売りの流れが一服、ドル/円も底値から持ち直した。17日(日)ドーハ産油国合会を控えて原油増産凍結合意への期待から原油相場が1バレル40ドル台へと持ち直したことでリスクセンチメントが改善した。連れて株式市場も持ち直しドル売りの流れが一段落して、ドル/円も一時109.74円まで持ち直した。結局、ドーハ会合では凍結合意に至らなかったことが判明し、翌18日(月)シドニー時間には再び107.75円まで反落する場面も見られたが、その後原油価格が1バレル40ドル近辺で安定したためドル/円の下落は限定的となった。

月後半は、日銀追加緩和期待に支えられドル/円は上昇したが月末には失望から反落した。19日(火)原油価格安定を受けドル売りが一巡したことでドル/円も下値から反発し109円台を回復した。22日(金)関係者「日銀、金融機関への貸出にマイナス金利検討」が報じられるとドル/円は110円台へ急伸、海外時間にかけて111.81円まで上値を更新した。27日(水)FOMCでは目新しい材料は見つからずレベルの変更は見られなかった。月末28日(木)日銀金融政策決定会合では金融政策が現状維持となったため失望売りからドル/円は107円台まで大きく反落した。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 今月の見通し

5月のドル/円相場はドルインデックスの巻き戻しにより下落基調が継続する見通し。

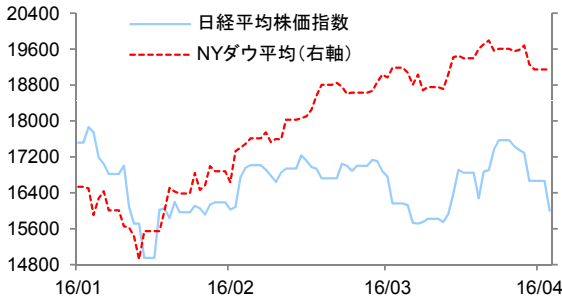
ドル/円相場は年初よりドルインデックスの巻き戻しに連れて10円超レベルを切り下げた。この巻き戻しは米国の金融正常化が当初想定していたペースよりも緩やかでかつ低水準であることに対する調整であり、4月27日のFOMC声明文からも読み取れるようにFRBの低金利政策は今後も継続する見込みだ。また、本邦サイドからも量・質・金利と多面的な緩和策が相次いで導入されているが、物価上昇という側面からは効果の確認がまだできていない。この為、昨年までの金融政策の巻き戻しにおけるドルインデックスの反落、円売り圧力の後退はまだ終息していない。

別の面としては、原油相場についても本年度に入ってから底値より反発を見せており、ドルインデックスと逆相関の関係となっている。4月12日報道「ロシアとサウジ、原油増産凍結で合意—外交筋」にあったように、4月17日のドーハ会合では原油増産凍結は合意に至らなかったものの、その後原油価格は1バレル40ドル台近辺で安定推移を見せた。これはドーハ会合にて産油国間の価格安定に向けた合意形成がなされた可能性が高く、原油相場は月末にかけて一段上昇を開始した。市場は原油価格の底打ちを確認した可能性があり、今月は原油先物ショートポジションの巻き戻しによるドルインデックス反落の可能性はある。

“sell-in May”の格言があるように5月は株式市場が下落しやすいというアナマリーがある。日米欧金融政策決定会合がなく金融政策の観点からはニュースに欠ける月となるため、市場のテーマに変化はないだろう。しかし、アナマリーにあるように株式市場下落によりリスクオフに拍車がかかれば、年初から続くドルインデックスの下落を助長する可能性があり、原油相場の反発も相俟ってドル/円の年初来安値再更新も排除できないだろう。

■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	米非農業部門雇用者数	3月	205K	215K	245K
4/1	米失業率	3月	4.9%	5.0%	4.9%
4/1	米ISM製造業	3月	51.0	51.8	49.5
4/5	米ISM非製造業	3月	54.2	54.5	53.4
4/13	米小売売上高 (前月比)	3月	0.1%	▲0.3%	0.0%
4/14	米CPI (前年比)	3月	1.0%	0.9%	1.0%
4/25	米新築住宅販売(前月比)	3月	1.6%	▲1.5%	▲0.4%
4/27	米FOMC				
4/28	米GDP速報(年率/前期比)	1Q	0.7%	0.5%	1.4%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル・ブル (4名、106.00～117.00、中心106.00～113.00)

藤崎	106.00 ～ 112.00	季節要因からの円買い需要が剥落。6月会合での日銀追加緩和期待が次第に高まり、円安方向への戻りを試す展開を予想。旺盛な直接投資や対外証券投資、政治イベントを控えての本邦での財政政策期待もサポート材料。
加藤	106.00 ～ 117.00	金融法人のみならず事業法人ですら円キャッシュを保持することよりも外貨を愛好したくなるような金融政策であり、時間とともに円売り圧力が高まってくると考える。一方で急激な円安は諸外国から円安政策との誹りを受けかねず、上値迫いにも慎重にならざるを得ない。
矢野	106.00 ～ 112.00	米金融政策を見てみると、景況感の悪化から利上げ見送りの思惑が高まりつつある。一方、日銀の追加金融緩和は4月こそ見送られたものの、ただ先送りになったと思われる。強弱混在となるも、下値では機関投資家による外債投資も期待されることから緩やかなドル高を予想。
西谷	106.00 ～ 114.00	4月の日銀金融政策決定会合は市場予想に反して現状維持となったが、カードを温存したと見ることもできる。原油相場が大きく持ち直しており、米株も史上最高値圏での推移が続いている。今後の経済データ次第では、米利上げ期待が盛り上がる可能性もあり、緩やかな上方向の値動きを見て行きたい。

■ドル・ベア (7名、102.00～111.00、中心104.00～110.00)

山下	104.00 ～ 111.00	今回の日銀追加緩和見送りにより、サミット前には動けないことが証明されたようなもの。米国もG20で痛烈な通貨安競争批判を繰り広げた手前、追加利上げには踏み切りづらい状況であり、ドル安円高トレンドは続行。
高田	104.00 ～ 110.00	先月は日銀の金融政策に対する思惑からドル/円が大きく上下したものの、主要テーマは引き続き米利上げであり不変。米経済指標や要人発言を手掛かりに方向感を探る展開か。冴えない米経済指標が確認されればリスクセンチが悪化しドル/円は下値を探るであろう。
佐藤	103.00 ～ 110.00	日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持を決定した。市場の追加緩和期待が高かっただけに、失望から円を買い進めやすくなったといえそう。また、FOMCでは景気判断をやや下方修正しており、FRBによる利上げ期待は徐々に剥落していくリスクがあり、年初来安値をトライする展開に。
西島	104.00 ～ 111.00	日銀追加緩和見送りにより投機筋の円売り攻勢は目先考えにくく、またFRBのハト派姿勢が意識される中で積極的なドル買いが期待できない状況は継続。落ち着きつつある原油市況も供給過剰の解消は依然不透明でマーケットの波乱要因。セルインメイが意識され株安を通じ円高が加速する展開に要注意。
尾身	103.50 ～ 109.50	今月は原油相場の反発に逆相関したドルインデックスの反落がドル円の下落を引き起こすと予想。金融政策面でのニュースに欠ける月になるため大きなテーマの変更はないと考えるが、相場下落アノマリーの月であるため下落基調に火がつけば年初来安値再更新も排除できない。
下山	102.00 ～ 109.00	日銀金融政策決定会合では追加緩和見送り。カードの乏しさや追加緩和の限界を感じているのだろう。また、米国の為替報告書で監視リスト入りしており、介入期待も乏しい。米利上げトーンも高まらない中、今後発表される本邦輸出企業の想定レートとの兼ね合いで上値での円買い意欲も強いと予想。
森谷	104.00 ～ 111.00	先月後半は日銀への緩和期待を背景にドル円は反発する局面も見られたが、結局追加緩和はなし。先月FOMCでの声明文の内容は米国早期利上げ期待を高める材料とはならず、良好な米国経済指標の結果が示された場合でもドル買いは限定的となり、じりじりと水準を下げる展開を予想する。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.1200 ~ 1.1700
EUR/JPY 118.00 ~ 126.00

国際為替部 為替営業第二チーム 橋 雄史

■ 先月の為替相場

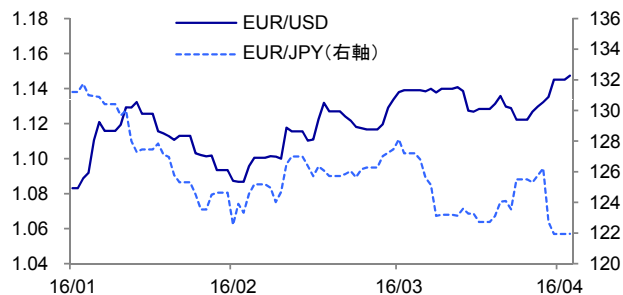
4月のユーロ相場は年初来高値を更新するも、値幅は限定的となった。月上旬は底堅く推移。1日は欧3月製造業PMIが市場予想を上回ったこと等から対ドルで1.1438まで上昇。その後、米3月雇用統計結果を受けて1.13台前半まで下落。4日は、ECBプラート理事による「必要ならば追加緩和の用意」との発言があるも、1.13台半ばで推移。5日は小動きで推移し、6日にギリシャ債務問題の再燃を受け1.1327まで下落。7日はドル売り優勢の中で1.1454まで上昇するが、その後公表された3月のECB理事会議事要旨において、より大幅な利下げが検討されていた事が明らかになると、1.13台半ばまで下落。8日は目立った材料がない中、1.14丁度近辺で越週。月中旬は年初来高値を更新。11日はユーロ/ポンドが急落する動きに1.14台を割れるが、その後は1.14台を回復。12日はドル売り地合いの中で年初来高値1.1465をつけたが、原油増産凍結でロシアとサウジアラビアが合意との報道を受けてリスクオン地合いが強まると、1.13台前半まで下落。13日は中国3月貿易統計で輸出が市場予想を上回り、欧州株が堅調推移を見せるなどドル買いが加速し、1.12台後半まで下落。14日はユーロ/円の下落に連れて1.1234まで下落するも、その後はロックハート・アトランタ連銀総裁の発言を受けたドル売りに1.12台後半まで上昇し、15日は米経済指標が軟調な結果となると1.1281で越週。週末17日の産油国会合では増産凍結が見送られたが、週明け18日は1.13丁度近辺で方向感なく推移。19日は欧米株が持ち直すも、1.13台後半で推移。月下旬は堅調に推移。20日、独経済相がECBの政策の限界について言及すると欧州金利が上昇し、1.13台後半まで上昇。21日は、ECB理事会で金融政策が現状維持となると1.1399まで急騰するが、ドラギECB総裁の会見で「長年に渡って金利は現行かそれよりも低いレベルになる可能性がある」とハト派な発言が見られると、1.12台後半まで下落。22日は独4月PMIが予想を下回り、1.12台前半で越週。25日は前週の流れを引継ぎ、月間安値1.1216をつけたが、米3月新築住宅販売の弱い結果を受けてドル売りが強まると1.12台後半まで上昇。26日はFOMCを控え調整から1.12台後半まで下落。27日はFOMC結果を受けて米金利が上昇すると、1.12台後半まで下落するが、その後はドル売り地合いの中、1.1363をつけた。28日には日銀金融決定会合結果が現状維持となると、ユーロ/円は126円台から123円台まで急落するが、対ドルの反応は限定的で1.13台半ばで推移。月末29日は欧3月GDPが予想を上回ると、1.1455まで上昇し月を終えた。

■ 今月の見通し

5月のユーロ相場は、方向感に乏しいレンジ推移を予想する。4月のユーロ相場は年初来高値を更新する展開となったが、月間値幅は250p程度の小幅レンジ推移に留まり、方向感に乏しい展開となった。ユーロ相場が落ち着いた様子を見せた要因は、米国の利上げペースの減速が市場に相応に折りこまれたことに加え、投機筋のポジションもユーロショートポジションが大幅に縮小するなど、過度なユーロ下落期待が落ち着いたことが一因に挙げられる。米欧の金融政策も、年初までは「利上げを継続する米国」と「追加緩和を拡大する欧州」という真逆のベクトルの向きであったが、足元は「緩やかな利上げを望むFRB」と「追加緩和の限界の効果に苦しむECB」との構造になりつつあり、米欧の金融政策スタンスからは、相場のトレンドを見いだしにくくなっている。また4月の日米欧の金融政策は全て現状維持となったが、5月以降も日米欧の金融政策には注目が集まる。4月のECB理事会では金融政策が現状維持に据え置かれ、半年ぶりに無風に終わったものの、3月に導入を決めた企業部門購入プログラム(CSPP)が6月以降実施されることが決まっており、今後は追加緩和策の効果見極めのステージに位置している。米国でも3月のFOMCで2016年度の利上げペースは年数回の緩やかなペースに変更されているが、足元の軟調な米経済指標を鑑みるに、利上げペースの方向性は未だ不透明な状況に位置している。日本でも過度に緩和期待が高まったいた中で、4月の日銀金融政策決定会合は現状維持に終わり、月末にはドル円が急落し年初来安値を更新する中、今後の日銀の金融政策は不透明感が漂っており、日米欧で予断を許さない状況が続いている。経済指標においても、ユーロ圏の経済成長率は13年4～6月期以降、丸3年にわたり成長が続いており、3月の失業率は10.2%と約4年半ぶりの水準まで改善傾向を示している。しかし、物価の低迷は続いており、欧3月消費者物価指数(前月比)はECBの目標とする2%には程遠い状況で、欧州の景気をけん引する独経済も4月の景況感指数が予想比悪化する等、先行き不安は依然強い。政治リスクとしても金融支援中のギリシャを巡って改革の進捗状況を巡る交渉が難航。5月9日の臨時財務相会合での合意が持ち越しとなれば、7月の大型返済を控える中、ギリシャ危機再燃のリスクも燃る。また6月23日には英国のEU離脱の是非を問う国民投票を控える等、欧州でのリスク材料は点在している。5月は日米欧の金融政策発表も控えておらず、主要イベントにはかかっているが、経済指標に一喜一憂する展開が想定され、5月のユーロ相場は方向感に乏しいレンジ推移の展開を予想したい。

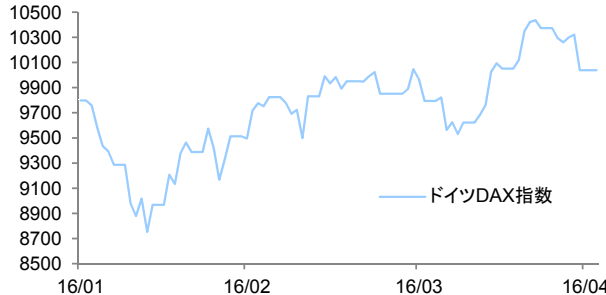
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	欧 製造業PMI	3月	51.4	51.6	51.6
4/8	独 経常収支	2月	16.5B	20.0B	14.3B
4/14	欧 消費者物価指数(前月比)	3月	1.20%	1.20%	0.20%
4/19	独 ZEW調査(現状)	4月	50.8	47.7	50.7
4/21	欧 ECB理事会 政策金利	4月	0.0%	0.0%	0.0%
4/22	欧 コンポジットPMI	4月	53.3	53.0	53.1
4/25	独 IFO企業景況感指数	4月	107.1	106.6	106.7
4/29	欧 消費者物価指数(前年比)	4月	-0.1%	-0.2%	0.0%
4/29	欧 失業率	3月	10.3%	10.2%	10.4%
4/29	欧 GDP(前期比)	1-3月	0.4%	0.6%	0.3%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ・ブル (8名、1.1000～1.1600、中心1.1100～1.1700)

藤崎	1.1000 ～ 1.1700	ユーロ圏各国の思惑に齟齬が生じる中、ECBの金融政策による通貨押し下げは限界。壮大な投機で積み上がったユーロショートが実需取引に押され、アンワインドされる展開を予想。一方で、英国のEU離脱懸念もある中、ユーロの上値も限定的となろう。
矢野	1.1000 ～ 1.6000	ECBによる金融政策は当面据え置かれることが予想される一方、米景況感の悪化や利上げに対する懐疑的な見方の高まりはユーロ相場のサポート材料となる。但し、英国のEU離脱に関する思惑が高まれば、徐々に上値は重くならう。
高田	1.1000 ～ 1.1700	ECBによる追加緩和が一段落する中、米金融引締めペース鈍化に伴いユーロは底堅い展開を予想する。英国のEU離脱懸念によるユーロ売りも予想されるが、国民投票日まで決定打に欠けるため下値は限定的であろう。
佐藤	1.1200 ～ 1.1700	FOMCでは景気判断をやや下方修正した格好となり、米利上げ期待は徐々に後退する可能性が高いと考える。ユーロ圏は、追加緩和の効果を見極めるステージにあり、ECBが拙速な追加緩和に動く可能性は低いだろう。莫大な経常黒字を背景にユーロは堅調な展開を予想したい。
西島	1.1200 ～ 1.1700	FEDのハト派姿勢がドルの上値を抑える構図が継続し、かつECBによる追加緩和余地も限られるため、ユーロはじりじりと強含む展開を予想。英国のEU離脱懸念がオバマ大統領からの牽制もあり、和らぐと想定されることもユーロの下支えになる見込み。引き続きBREXITを巡るニュースは波乱要因として要警戒。
尾身	1.1100 ～ 1.1700	ユーロ相場は引き続き上昇圧力にさらされると予想。FEDによる早期利上げ期待が後退する中、ドル買い巻き戻しの流れからユーロも下落しづらい相場展開を予想。先月末からの原油相場の持ち直しがドル売りユーロ買いを加速させるドライバーとなるか注目したい。
下山	1.1200 ～ 1.1900	ECBによる金融緩和は打ち止め感があり、一層のユーロ安は期待薄。加えて、4月FOMC声明文や3月のイエレン米FRB議長の講演をみる限り、FRBは利上げにまだまだ慎重なトーンとの認識であり、ドル売りが強まる可能性もあろう。投機筋の既存のショートカバーも相まって、ユーロは水準を切り上げると予想する。
森谷	1.1100 ～ 1.1700	ECBへの追加緩和期待が盛り上がるには時間がかかると考えられる一方で、先月FOMCでは引き続き利上げに対して慎重な姿勢が示された。依然として積み上がっているユーロショートポジションが金融格差を背景に積み上がってきたものであることを踏まえると、巻き戻しから上昇する展開を予想する。

■ ユーロ・ベア (3名、1.0600～1.1500、中心1.0700～1.1500)

加藤	1.0700 ～ 1.1500	英国のEU離脱観測がそれなりに後退し、ボンドが買い戻されるに連れ、ユーロ高になる可能性もあるものの、ユーロ圏内における不協和音が解消されたわけではなく、基調としてのユーロ安は維持され则认为る。
山下	1.0600 ～ 1.1400	EU離脱の是非を問う英国国民投票は、現状では拮抗しており、不透明感が拭えない。ポンド安に連れユーロが下落する可能性は高く、低水準で推移しているインフレ率に業を煮やし、一旦は見送られているECBの追加緩和観測も再燃するであろう。
西谷	1.0900 ～ 1.1500	今後の経済データ次第ではあるものの、米利上げ期待の盛り上がりドル高につながる可能性はあると考えている。またECBによる金融緩和に一段落感はあるものの、英国のEU離脱懸念など、ユーロ圏固有のリスクも散見され、ユーロ安の展開を予想する。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.4300 ~ 1.4950
GBP/JPY 153.50 ~ 163.70

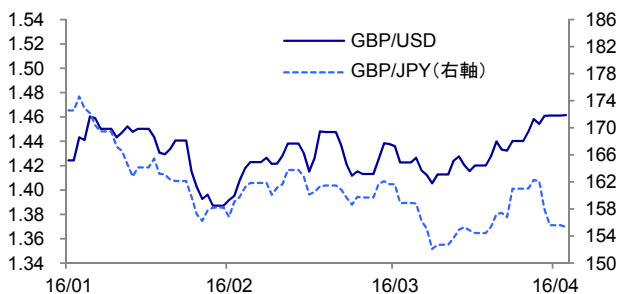
欧州資金部 本多 秀俊

■ 先月の為替相場

4月のポンド相場は、下押し先行後、反発。下押しの先行には、3日、キャメロン首相の亡父が開いた口座の存在が確認された「パナマ文書」の発覚が大きく寄与した。同首相は6月に予定されるEU残留の是非を問う英国国民投票で残留を推進する指導的立場にあるが、その首相への国民の信頼が損なわれることで、残留派が劣勢に陥る可能性が懸念された。また、折からの円高進行がポンド/円の急落を誘い、ポンド全般の下押しを促したという側面もあった。この局面の円高進行は、5日、米紙上で安倍首相の「通貨安競争は残留すべき」との発言が伝えられ、日当局による円売り介入観測が大きく後退したことをきっかけとした。ドル/円が14年10月来の安値となる107.67円まで急落(6日)するに前後して、ポンド/円も13年8月来の安値となる151.66円まで下落(7日)。ポンド/ドルの下落は5週間ぶりの安値となる1.4006までにとどまり(6日)、その後ポンドは、安値圏での膠着を経て全面高へと推移していった。ポンド反発のきっかけは、11日、キャメロン首相が過去6年分の納税記録を公表、問題となったパナマ籍の投資信託も英市場で登録されており、租税回避に該当するような内容がなかったことだった。12日発表された英3月消費者物価指数は、前年比+0.5%と市場予想(同+0.4%)を上振れ。とりわけ、コア指数が同+1.5%と(前月の同+1.2%から)急伸したのは、英中銀の今後の金融政策動向を占う上で非常に興味深い数字と思われた。しかし、ポンドはむしろ軟調に推移。更に、14日の英中銀金融政策委員会結果発表直前には、「一部の委員が利下げ票を投じる可能性」まで噂され、ポンドは更に下押しした。蓋を開けてみれば、基準金利、資産購入額上限の据え置き決定は9対0の全会一致だったが、ポンドの反発は弱く、翌15日まで軟調推移は続いた。しかし、18日以降、ポンド/円の急反発をけん引力に、ポンドは明確に水準を切り上げた。きっかけは、原油の急反発。17日にドーハで開かれた主要産油国の会議は原油生産量凍結に失敗、週明け18日早々原油は大きく水準を切り下げて取り引きを再開したが、ほどなく底打ち、急上昇へと展開した。クウェート油田労働者のストライキで同国の産油量が急減したのが主因だったが、原油価格の急反発で、世界的な株価も急反発、投資市場のリスク許容量回復を背景に円安が進行した。更に22日、「日銀が資金供給オペにマイナス金利を付する」との観測が広がると円安が加速。ポンド/円は同日中に3週間ぶりに160円台を回復。その後、ポンド/ドルは月末まで堅調を維持したが、28日、日銀の追加緩和見送りを受けてポンド/円は急落した。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク

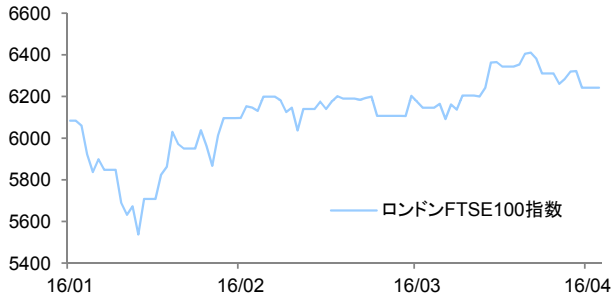


■ 今月の見通し

5月のポンド相場は、上値は限定的ながら、堅調推移を中心に見込む。2月末以降のポンド安の背景には、EU残留の是非を問う英国国民投票に向けた不透明感が嫌気されたという要素が色濃くあった。英発の要因では、引き続き、同国民投票の行方がポンドの値動きに影響しようが、6月23日の投票日まで、不透明感が完全に払拭される可能性は低いだろう。逆に、移民に紛れ込んで英国内に潜入したテロリストがテロを起こし、万が一、大きな被害を招くようなことがあれば、国民感情が一気に反EUに傾く可能性は考えられる。同国民投票に向けては、EU残留による安心感からポンドが買上げられるような展開が想定しにくい一方、EU離脱への警戒感からポンドが大きく売込まれるリスクは(高くないものの)払拭できないという非対称な状況が続くものと考えられる(他のEU加盟国の治安当局との情報共有がテロを未然に防ぐような状況も想定できないわけではないものの、起きなかったテロの被害＝確保した潜在的利益を推し量るのは難しかろう)。5月12日(木)には英中銀金融委員会の結果、議事録に加え、四半期インフレ報告書が発表される。英短期金利先物の動向を見る限り、市場参加者の大半は英中銀利上げ開始は来年以降になるものと見込んでいる。ここで注意を払っておきたいのは、足許原油価格動向。ブレントは昨年8月の月間平均が47ドル/バレル前後で、足許価格は44ドル/バレル前後まで回復している。このまま高止まりが続けば、今年8月(の統計が発表される9月)までには前年比で横ばいとなり、CPI総合指数のコアCPIへの接近が確認される可能性が高い。英中銀の物価誘導目標は前年比+2%(±1%)であり、英のコアCPIは直近(3月)同+1.5%まで上昇してきている。英中銀首脳は、現時点で、近い将来の利上げの必要性を全く示唆してはいないものの、市場から見れば「拙速」と表現しても過言ではない「利上げ予告」を過去繰り返してきた前歴を持つ英中銀カーニー総裁が、こうした環境をどう認識しているかは興味深い。利上げの「地均し」とまではいかなくても、インフレ報告書が、燃料価格動向に強い関心を示すような表現を盛り込めば、早ければ8月利上げ、遅くとも「8月インフレ報告書の地均しで11月に利上げ」といった道筋を織り込みにくい動き(ポンド押し上げ要因)も出てくるのではないか。斯かる環境下、英経済指標では物価関連指標に注目。17日(火)の4月CPI、18日(水)の1～3月平均賃金などだ。3月CPI上振れの要因として、昨年は4月だった復活祭休暇が今年は3月だったことで航空運賃が上振れたことなどが挙げられたが、その反動が素直に出るものか注目したい。

■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』
ロンドンから身近な観光地というコッツウォルズが有名ですが、日帰りで十分巡れる距離です。交通手段の発達で、今時はバリも日帰り圏内ですから...。その昔は、イングランド南部の海岸沿いもロンドンからの保養地として人気があったそうです。ブライトン、イーストボーンなどの街の他、小旅行で行くならワイト島(ビートルズの「When I'm Sixty Four」でも歌われるイングランド南岸の島)あたりも人気だったと聞いたことがあります。そういえば、EU国民投票を題材にした某テレビチャンネルで、クラクトン-オン-シーという聞いたこともない街が、「イギリスで最もEU懐疑的な街」として紹介されました。ロンドンから東北東に100kmばかり行った北海に面したこの街も、その昔はロンドンからの保養地として栄えたのだそうです。興味深いのは、英のEU加盟で格安航空がどんどん飛ぶようになり、マラガやイビザに観光客を奪われたのが、この街がEU嫌いになった主因という分析。本当にそうなら、ちょっと八つ当たり気味な気がしますね。旅行するなら風まかせ、事前にあまり予定を詰め込む質ではないので、モデルプランと言ってもはたと考え込んでしまいますが、イングランド観光の醍醐味を「散歩」「アフタヌーンティ」「フィッシュアンドチップス」の三点に勝手に絞って、こんなプランはいかがでしょう？(要運転)
1日目: 昼食は抜くつもりで、がっつりイングリッシュブレックファストを食す。南に向かいシェフィールドパーク(www.nationaltrust.org.uk/sheffield-park-and-garden)の庭園内をのんびりお散歩。歩き疲れたらアッシュダウンパークホテル(www.ashdownpark.com/)に移動して、アフタヌーンディ(要予約)を楽しむ。そのまま宿泊。
2日目: 更に南に足を伸ばして、ブライトンに向かう。お昼はバンカーズ(www.bankers-restaurant.co.uk/)でフィッシュアンドチップスを食し、午後は海岸沿いを散策して腹ごなし。飽きたら帰る。

■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/8	鉱工業生産(前年比)	2月	0.0%	-0.5%	0.1%
4/8	製造業生産(前年比)	2月	-0.7%	-1.8%	-0.3%
4/8	貿易収支(百万ポンド)	2月	-3400	-4840	-5234
4/12	消費者物価指数(前年比)	3月	0.4%	0.5%	0.3%
4/14	英中銀基準金利		0.50%	0.50%	0.50%
4/20	ILO失業率	12-2月	5.1%	5.1%	5.1%
4/20	週平均賃金上昇率(前年比)	12-2月	2.3%	1.8%	2.1%
4/21	小売売上高(含自動車/前年比)	3月	4.4%	2.7%	3.6%
4/27	GDP(前年比)	4Q A	2.0%	2.1%	2.2%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.7250 ~ 0.7800
AUD/JPY 76.00 ~ 84.00

シドニー支店 山口 美紀

■ 先月の為替相場

4月の豪ドルは、10か月ぶり高値0.7836を付けるも、その後0.75台に下落。

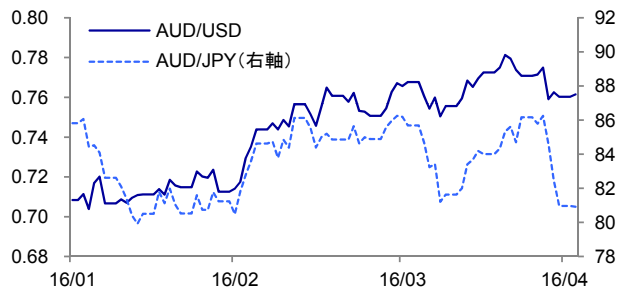
1日、豪ドルは0.76後半でスタート。4日、豪2月小売売上高が市場予想を下回り、0.76前半に下落。翌日、豪2月貿易収支も予想を上回る赤字となり、豪ドルは0.75後半に値を下げた。また、注目の豪州準備銀行(RBA)理事会では、政策金利が2.00%に据え置かれ豪ドルは小動き。海外市場にて欧米株価が下落し、リスク回避の動きが強まり、豪ドルは0.75前半に下落した。翌日、ハト派(金融引締消極)なFOMC議事録を受けて、米短期金利先物市場において6月会合の利上げ織込が20%を下回ると(3月FOMC時点では50%)、豪ドルは0.76前半に反発。しかし、7日、原油安を背景に、豪ドルは0.7490まで急落した。

8日、原油反発を受けて、コモディティ通貨の豪ドルも0.75半ばに反発。その後、原油が40ドル台を突破し、豪ドルは0.76後半に上昇。13日には、豪州最大の貿易輸出国である中国の3月貿易収支が良好な結果となり、一時0.77台に浮上。その後、豪ドルは0.77を中心に揉み合い推移した。18日、17日の原油主要産油国会合で増産凍結が見送られ、豪ドルは一時0.76を下回るも、クウェートの石油労働者ストライキを受けた生産量減少懸念から原油が上昇すると、豪ドルも0.76台に反発。原油と鉄鉱石価格上昇を背景に、豪ドルは堅調に推移し、21日には高値0.7836まで上昇。その後、商品価格の利益確定売りに押され、豪ドルも0.77近辺に反落した。

22-26日、豪1-3月期消費者物価指数(CPI)を控えて、豪ドルは0.77前半を中心に揉み合い推移。27日、注目の豪1-3月期CPI(前期比)は市場予想+0.2%に対して▲0.2%とネガティブになり、豪ドルは0.76割れに急落。海外市場のFOMCでは6月の利上げの可能性が残される形となり、豪ドルは一時0.75台半ばまで値を下げた。29日、中国人民銀行が基準値を前日比+0.5%高に設定すると、豪ドルは0.76半ばに反発するも、結局0.76丁度近辺で越月した。

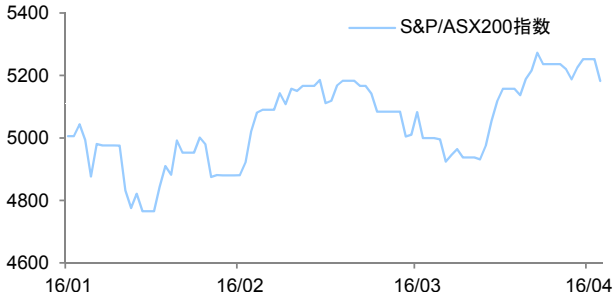
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/4	小売売上高[前月比]	2月	0.4%	0.0%	0.3%
4/5	貿易収支	2月	▲2500M	▲3410M	▲3156M
4/5	RBAキャッシュレート		2.0%	2.0%	2.0%
4/11	住宅ローン[前月比]	2月	2.0%	1.5%	▲3.9%
4/14	雇用者数	3月	17.0千人	26.1千人	▲0.7千人
4/14	失業率	3月	5.9%	5.7%	5.8%
4/19	RBA議事録				
4/27	CPI[前期比/前年比]	1-3月	0.2%/1.7%	▲0.2%/1.3%	0.4%/1.7%
4/27	CPI[12月平均][前期比/前年比]	1-3月	0.5%/1.9%	0.1%/1.4%	0.4%/1.9%
4/27	CPI加重平均[前期比/前年比]	1-3月	0.5%/2.0%	0.2%/1.7%	0.6%/2.1%

■ 今月の見通し

「5月の豪ドルは下落を予想、3日のRBA理事会に注目。」

先月発表された1-3月期豪CPIは非常に弱い結果となった。CPI前期比は▲0.2%と約7年ぶりのネガティブ、更に、RBAが政策運営で注視する基調インフレ率(=(トリム平均値+加重中央値)÷2)はRBAのインフレターゲットレンジ(2-3%)を下回る+1.55%となり、RBAの利下げの可能性が出てきた。前回RBA声明文でも「低インフレが続く、かつ需要を支援する上で適切であると判断されれば、追加緩和に踏み切る可能性がある」と言及しており、5月3日(火)のRBA理事会での25bp利下げを予想する。RBAは政策金利を2.00%から史上最低となる1.75%とするだろう。RBAの利下げ観測の高まりを背景に、今月の豪ドルは下落を予想する。また、RBAが今月に利下げを見送ったとしても、次回以降の会合での利下げ期待は継続されたと考え、豪ドルは軟調推移するだろう。

一方で、商品価格は堅調地合いが続いている。NY原油先物(WTI)は2016年最安値31.77ドルより+25%上昇、豪州最大の輸出品目である鉄鉱石(鉄分62%)は2016年最安値39.51ドルより78%上昇した。WTIは、2014年9月以来となる200日移動平均線44ドルを超える場面が出てきており、商品価格の下落相場が終焉しつつあると考える。したがって、コモディティ通貨の豪ドルの下値も限定的と見る。豪ドル下値は200日移動平均線0.7250近辺か。

他方、米国は、4月FOMC声明文にて前回追加された世界経済・金融情勢に対するリスク文言(「世界経済と金融情勢がリスクである」)が削除されるも、「世界経済・金融情勢を引き続き注視する(closely monitor)」との文言が盛り込まれ、結果的には前回からのスタンスは変わらず。6月FOMCでの利上げ可否について特段ヒントも得られず、当面は、マーケット参加者もイベントをひとつひとつこなしながら金融政策の動向を推測していくという状況であり、米ドル主導の動きは出にくい環境が続くと考え。豪ドルへの影響は限定的と見る。

5月の豪州注目指標は、RBA理事会(3日)、小売売上高、貿易収支(5日)、雇用統計(19日)、民間設備投資(26日)。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

日本の約20倍、ロシア、カナダ、中国、米国、ブラジルに次いで世界第6位の面積を持つオーストラリア。こんな広い国土では、一泊二日で行ける場所に限りがありますが、駐在員として私の豪州任期(時間)も限りがあるので、渡豪して以来、祝日連休を利用して短期旅行をよくしています。

まず、シドニー滞在の観光客の場合、「空港→フィッシュマーケットでオイスター→ミルソズポイントからハーバーブリッジを渡る→ロックスの出店等観光→オペラハウス→ダーリングハーバーでランチ→マンリーorボンダイビーチ。翌日は少し遠出をして、ブルー・マウンテンズでブッシュ・ウォーキング、セントラル・コーストのビーチでマリンスポーツ、ハンター・バレーでワイナリー巡り、ポート・スティーブンスでイルカウォッチング、ジャービス・ベイのさらさら純白ビーチでのんびり」等が一般的なモデルプランかと思います。

一方、国内在住者の場合は、世界遺産等のキレイな景色の場所に行くことが多いです。オーストラリアは、日本の17個を上回る19個の世界遺産があります。①文化遺産:王立展示館とカールトン庭園、シドニー・オペラハウス、オーストラリアの囚人遺跡群、②自然遺産:グレート・バリア・リーフ、ロード・ハウ島群、オーストラリアのゴンドワナ多雨林群、クイーンズランドの湿潤熱帯地域、西オーストラリアのシャーク湾、フレーザー島、オーストラリアの哺乳類化石地域、ハード島とマクドナルド諸島、マッコリー島、グレート・ブルー・マウンテンズ地域、バーヌルル国立公園、ニンガルルー・コースト、③複合遺産:カカドウ国立公園、ウィランドラ湖群地域、タスマニア原生地域、ウルル・カタジュタ国立公園。複合遺産4個は世界最多!

旅行に行けば行くほど、行きたい場所が増えていきます。「終わりのなき旅」ですね。。

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.2050 ~ 1.3000
CAD/JPY 80.00 ~ 90.00

米州資金部 高橋 勝彦

■ 先月の為替相場

月初、サウジアラビアが生産調整にはイランが参加することが実施条件との考えを示したことにより、産油国による増産凍結に向けた協議に対する不透明感が強まり原油価格が低下したことや、米3月雇用統計やISM景気指数の数字が良好となったことでドル買いが進み、ドル/カナダドルは1.31台半ばまで上昇した。その後も原油価格の下落基調が続く中、カナダの貿易赤字が予想以上に拡大したため、カナダドル売りが優勢となり、ドル/カナダドルは一時1.3219まで上昇した。カナダ3月の雇用統計で、失業率は予想外の低下、雇用者数は予想以上の増加だったことを受けて、原油高もカナダドルの押し上げ効果を手伝い、ドル/カナダドルは1.29台半ばまで下落した。

月中盤にかけて、全般にリスク動向に落ち着きが見られる中、カナダ中銀が政策金利を据え置き、今年の成長見通しを引き上げたことを好感し、カナダドル買いが優勢となり、ドル/カナダドルは昨年10月以来の安値を更新し一時1.2745まで下落した。しかし、ドーハ協議で産油国が増産凍結に合意できなかったことから、原油価格が大幅安となるなどリスク回避の雰囲気が強まるなど、資源国通貨も大幅安となり、ドル/カナダドルは1.2990まで買い戻された。

月後半、米FOMCでの声明を受けて上下動したものの、全体的な市場の方向感では出なかった。資源国通貨はまちまちの値動きとなり、カナダドルは原油相場が堅調だったこともあり、ドル/カナダドルは1.26台から1.25台へと下落した。その後、ドル/カナダドルは一時1.25割れとなる一時1.2499まで低下したが、2月のカナダGDPは前月比-0.1と弱含み、原油相場が反落したことから、1.25台後半まで戻し1.2538で越月した。

■ 今月の見通し

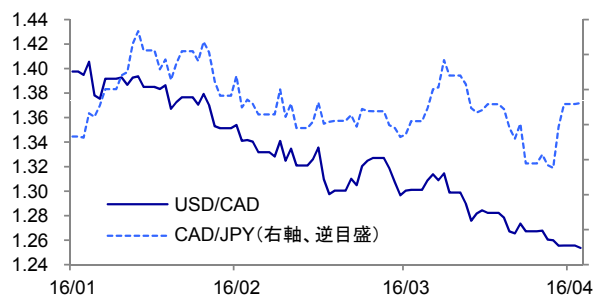
金融市場は年初からリスクオフの動きが続いていたが、足許では米FRBのハト派姿勢や中国懸念の後退を背景に、行き過ぎた悲観的な見方は修正され、株式市場や原油価格が持ち直す動きとともにカナダドルも回復している。足許、原油相場動向は金融市場におけるリスクオン・オフ相場と強い相関関係が見られ、今月のカナダドル動向も、引き続きそれらの動きとの連動性の高い展開となろう。原油価格は40ドルを上回り、金融市場はリスクオンの流れとなっているが、更なる原油価格の上昇には、世界経済の好転からの需要の強まりや産油国の減産合意などが必要と思われ、再び40ドルを大きく下回るようであればリスクオフの様相が強まるので注意が必要だろう。ドル/カナダドルは1月20日に1.4690をうけた後、安定した下降局面となっており、2011年7月から2016年1月にかけての長期的な上昇局面の半値戻し水準が1.2050付近となっており、当面は下値の目処として意識されるだろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』
トロントはカナダで一番大きい都市ですが、東京・NY・パリと違って規模が小さく、二日あれば主要箇所は全て回れます。まずPearson国際空港についたらダウントウンに直行。そしてチャイナタウンにいった腹ごしらえ。その後のおやつのためにゴマ団子を買ひましょう。夏であれば明るいうちにウォーターフロントからフェリーにのってトロントアイランドへ行くことをおすすめします。オンタリオ湖を渡りつつ、トロント名物のCNタワーを含めた街全体を見ながら移動できるので観光には効率がいいです。島へついたら自転車レンタルして軽く一周。ただ島自体にはあまり見るところがないので1時間したらさっさとダウントウンに戻りましょう。次のスポットは趣味にもよりますが、歴史が好きならカサ・ローマ、芸術が好きならロイヤルオンタリオミュージアム、スポーツが好きならロジャースセンターにてメジャーリーグ観戦かエア・カナダセンターでバスケットボール観戦がお勧めです。お勧めといってもそもそもこれくらいしかトロントではやることのない気がします。。。しかし、これくらい観光すれば日が暮れる時間にはなと思います。夜には長距離バスにのってナイアガラの滝に行きましょう。着いたらまず夜のナイアガラの滝を楽しみ、あきたらカジノに行きましょう。カジノは24時間開いているので、夜遅くても大丈夫です。僕はボーカールの勝ち金で旅費を全てカバーしました。ただ勝ったらさっさと切り上げて寝ることをお勧めします。次の日は朝のナイアガラを眺め、あきたらワインツワーをすると楽しいです。正直なめていましたが、ナイアガラワインは意外にクオリティが高く、甘くておいしいです。ワインでほろ酔いになったらまた長距離バスでトロントにもどりましょう。トロントに戻ったら、Bay駅近くのYorkvilleエリアにておいしいイタリアン、デザートにジェラートを食べると最高です。もし現地に知り合いがいれば、コストコでメープルシロップを買ってもらっておけば、お土産もばっちりです。(カナダ支店 森 泰然)

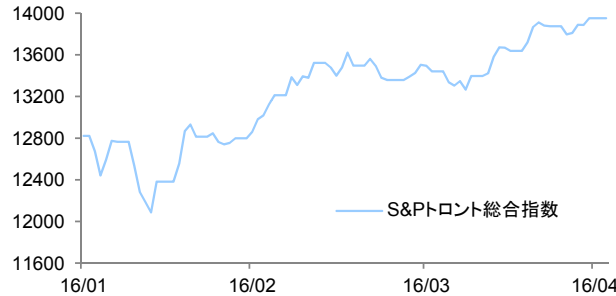
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/8	失業率	3月	7.3%	7.1%	7.3%
4/8	雇用ネット変化率	3月	10.0K	40.6K	-2.3K
4/13	カナダ銀行翌日物貸出金利	4/13	0.5%	0.5%	0.5%
4/22	小売売上高(前月比)	2月	-0.8%	0.4%	2.0%
4/22	小売売上高(除自動車/前月比)	2月	-0.7%	0.2%	1.3%
4/22	消費者物価指数(前年比)	3月	1.2%	1.30%	1.4%
4/22	CPIコア(前月比)	3月	0.4%	0.7%	0.5%
4/22	CPIコア(前年比)	3月	1.7%	2.1%	1.9%
4/29	GDP(前月比)	2月	-0.2%	-0.1%	0.6%
4/29	GDP(前年比)	2月	1.5%	1.5%	1.6%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW 1120 ~ 1170
KRW/JPY 9.09 ~ 9.71
JPY/KRW 10.30 ~ 11.00

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 吉田 史門

■ 先月の為替相場

4月のドル/ウォン相場はほぼ横ばい。

月初1日のドル/ウォンは前月末対比1.5ウォン安の1145.0ウォンで取引を開始。原油価格が下落し、リスクセンチメントが悪化する中、ドル/ウォンは1150ウォン台を中心としたレンジで推移。国内大手企業の外国人投資家向け配当金に関する報道を受けて、8日のドル/ウォンは月高値となる1162.8ウォンをつけるも、実需フローを受けて同日中に再び1150ウォン台に下落。その後もグローバルなドル安基調が続き、第20代国会議員選挙を控えた11-12日のドル/ウォンは1140ウォン台で推移。

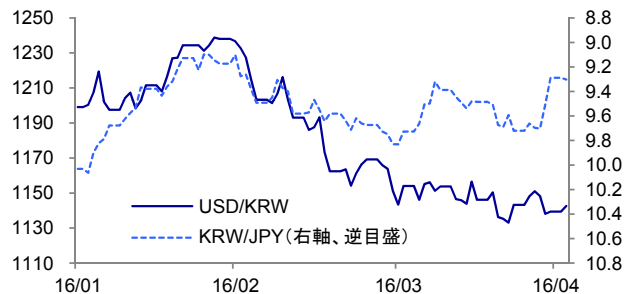
13日は、第20代国会議員選挙を受けて韓国市場は休場。選挙では、セヌリ党(与党)が過半数割れとなり、第2党に転落し、韓国では16年ぶりの少数派与党となった。レームダック化したパク・クネ政権への懸念が高まったものの、相場への影響は限定的。むしろ、同日に発表された良好な中国の貿易関連指標が好感されたことからオフショア(NDF)市場でのドル/ウォン相場は上値の重い展開となった。しかし、翌14日にはシンガポール金融管理局(MAS)が定例会合でシンガポールドル高誘導策から上下どちらの方向にも誘導しない中立スタンスへの移行を発表したことを受けて、ドル/ウォンは再び1150ウォン台に。

19日に開催された韓国銀行(BOK)金融通貨委員会は、市場予想通り政策金利を1.50%で据え置くことを決定され、2016年度の成長見通しが+2.8%(従来+3.0%)に下方修正された。総裁会見は総じて見ると中立的スタンスを保ったものであったが、ドル/ウォンは下げ幅を拡大し、年初来安値を更新した。また海外市場でリスクセンチメントの改善が継続したことから、翌20日のドル/ウォンは月安値となる1128.3をつけた。

22日に「日銀が金融機関向けの貸し出しにマイナス金利適用を検討」との報道を受けてドル/円が急騰する場面でドル/ウォンも追随してオフショア(NDF)市場で再び1150ウォン台に上昇。その後、実需フローを受けて上値の重い相場に転じ、結局ドル/ウォンは前月末対比4.2ウォン高の1139.3ウォンで引けた。

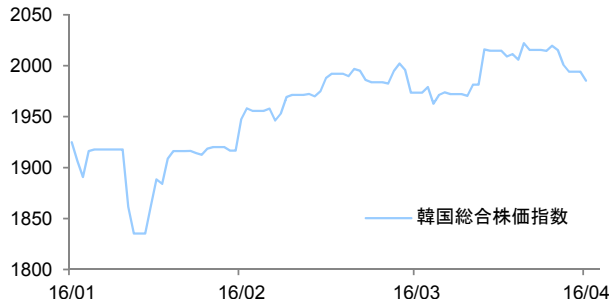
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	消費者物価指数(前年比)	Mar	1.3%	1.0%	1.3%
4/1	CPIコア(前年比)	Mar	1.9%	1.7%	1.8%
4/1	輸出(前年比)	Mar	-10.9%	-8.2%	-12.2%
4/1	輸入(前年比)	Mar	-14.3%	-13.8%	-14.6%
4/1	貿易収支	Mar	\$8496m	\$9820m	\$7394m
4/15	失業率(季調済)	Mar	3.9%	3.8%	4.1%
4/19	韓国銀行7日間レートの	Apr	1.5%	1.5%	1.5%
4/26	GDP(前年比)	1Q P	2.7%	2.7%	3.1%
4/29	鉱工業生産(前年比)	Mar	0.3%	-1.5%	2.4%

(資料) ブルームバーク

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

私が考えた一泊二日観光モデルプランは韓国でのグルメツアー。

まずは仁寺洞の伝統茶屋で伝統茶(五味子茶など)を楽しむところからスタート。特におすすめの伝統茶は甘酒に似た発酵飲料であるシッケ。次はレトロな雰囲気のある街並みを楽しめる三清洞を通り抜けて、韓国を代表する古宮の景福宮で観光。お腹がすいたところで電車に乗って東大門に。広蔵市場という活気溢れる市場を横目に目指すはタッカンマリという特製スープの中に鶏を丸ごと一匹煮込む料理。東大門のファッション街でショッピングを楽しんだら、夕食は漢江クルーズのビュッフェ。料理は特に珍しい訳でもないが、遊覧船から眺めるソウルの街が絶景。

二日目の朝は近くの食堂へ。ヘジャンクッという二日酔いに効くスープがおすすめ。その後は明洞でお土産を買ったら、旅の最後の食事はサムギョプサル。日本でも人気のサムギョプサルだが、韓国では鉄板に傾斜をつけて豚肉から出た油を捨てる仕組み。この油を使って焼いたキムチが最高においしいので、ぜひ試してみてください。

最後に、利用する空港だが、有名な仁川空港ではなく、金浦空港をおすすめする。ソウル市内までの所要時間は仁川1時間、金浦20分である。一泊二日の弾丸ツアーであれば、時間は節約したほうがいいだろう。

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 31.50 ~ 32.50
TWD/JPY 3.20 ~ 3.47

台北資金室 辻野 順治

■ 先月の為替相場

4月のドル/台湾ドル相場は、ドルの下げ止まり、台湾株式市場への外国人投資家資金流入の落ち着きにより、台湾ドル高は一服するも、日銀会合結果を受け、結果的には小幅台湾ドル高となった。

4月のドル/台湾ドル相場は、33.20台後半でオープン。前日には、一時、32.10台まで台湾ドル高が進んでいたが、米3月雇用統計の発表、台湾連休を控え、小幅台湾ドル安。4,5日は、祝日のため、休場。6日は、台湾祝日中に、韓国ウォン安が進んでいたことで、32.40台まで続落。7日、8日は、6日夜発表のFOMC議事要旨などの材料があるも、ドルの動きも小幅に留まり、32.40台での取引が続いた。

11～13日は、32.30台で一進一退。原油増産の凍結合意への期待感から、ドルが反発する局面では台湾株式市場への株式資金流入もあり、台湾ドルの動きは限定的。14日は、シンガポールの予想外の金融緩和により、アジア通貨が全般的に軟調となったものの、32.40付近までの台湾ドル安に留まり、15日は、32.30台へ回帰。中国の16年1～3月期GDPは、市場予想通りの結果となり、材料にはならなかった。18日は、週末に原油増産凍結交渉が合意に至らなかったことで、市場心理の悪化から台湾ドル安となったものの、32.40付近までの動き。19日は、市場心理の改善によるアジア通貨高の動きと歩調を合わせ、32.20台へ台湾ドル高が進行。

20日も、ドル安が進んだことで、一時、32.10台まで台湾ドル高が進む場面もあったが、21日は、原油一段高の中で、米金利上昇を伴ったドル高となったことで、32.20台後半へ。22日は、ドル円の荒い動きへは反応が見られず、32.30付近での取引。但し、25日は、前週末の欧米時間で、一段の円安、ユーロ安が進んだことで、相対的ながら、ドル高となったことから、32.30台半ばまで小幅台湾ドル安。26,27日も、米経済統計やFOMCなどの材料があるも、32.30台で一進一退。28日は午前中、32.30台で推移していたが、日銀会合での追加緩和見送りに伴い、急激に円高が進行したことで、32.20台半ばまで台湾ドル高が進行。29日も、107円付近を目指す円高進行の継続により、台湾ドル高圧力が続き、一時、32.10台へ。但し、急ピッチな動きへの警戒感から、32.20台に値を戻した。

■ 今月の見通し

5月のドル/台湾ドル相場は、小幅台湾ドル高を見込む。

台湾経済統計は、1～3月期 GDPが前年比▲0.84%。輸出、輸出受注、鉱工業生産などは依然マイナスとなっているものの、マイナス幅は縮小しており、輸出受注の詳細を見ると、総額の半分を占める電子部品、情報通信機器のマイナス幅は前年比▲0.7%と、ほぼ前年並みまで持ち直すなど、復調の兆しも見えてきた印象。3月消費者物価指数(CPI)は、生鮮品価格が高止まりしており、引き続き強い数字。但し、その他品目の伸びは鈍いままとなっており、金融政策の材料とはならない見込み。

4月台湾ドル高の季節性も、台湾株式が、1月下旬以降、大きく上昇してきたこともあり、市場心理改善の中でも、外国人投資家の動きは限定的となったことで、今年は前月末比、小幅な台湾ドル高に留まった。5月は、年を通じて、台湾ドル安になりやすい月であり、株価に頭打ち感が出ていることは、台湾ドル安の追い風。但し、結局は、ドル動向が最大の材料であることは変わらず、ドルの動きに左右される展開を見込む。一方、6月EU離脱・残留を問う英国住民投票を控えたタイミングでのFOMCでの利上げ決定は、海外情勢に配慮してきたFOMCのスタンスに沿ったものとは言えない。強い米経済統計が出てきても、6月利上げ観測が盛り上がり、台湾ドル安が進む場合も小幅な動きに留まり、むしろ台湾ドル高リスクの残る展開を見込む。

さて、1月末に15年10～12月期GDPが発表され、マイナス成長が確認されると、同日、オーバーナイト金利は低下し、3月の台湾中銀定例会合での利下げ観測が高まった。一方、1～3月期GDPが前年比マイナスとなったものの、オーバーナイト金利は低下しておらず、次回6月の台湾中銀定例会合での利下げ観測は高まっていない。上述のように、一部経済統計には底打ちの兆しが出ており、残り2回と、限られた利下げ余地を温存するという見方も出来る一方、持ち直しを後押しするために利下げするという見方も出来る。いずれにせよ、5月以降の経済統計を見極めながらの判断となるだろう。(なお、5月に民進党政権の正式始動が予定されているが、相場への影響は特に見込んでいない。)

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

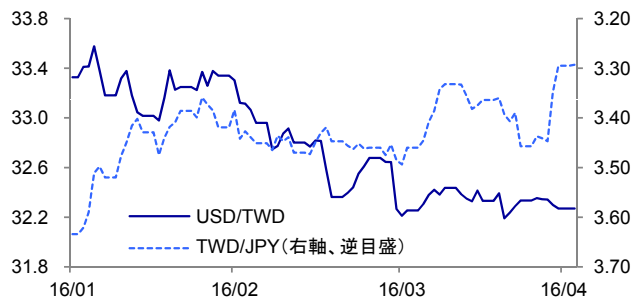
少し本題から逸れますが、台湾では、社員旅行が福利厚生として企業に義務付けられており、弊行に限らず、多くの企業で毎年、社員旅行が行われています。企業によっては、海外旅行もしているようですが、弊行の場合は、週末一泊二日での台湾旅行を行っています。高速鉄道(日本の新幹線)に乗れば、一泊二日で廻れる観光地も多く、中部にある日月潭という湖では、湖畔のサイクリングなどを楽しめました。

個人的な旅行では、今年に入ってから、温泉を巡っており、北投温泉、礁溪温泉に行ってきました。北投は、台北市内から地下鉄で40分ほど、礁溪温泉は、台北市内東部からの高速バスで50分ほどで着くため、一泊二日でも現地でゆっくり滞在出来ます。北投は、硫黄系の温泉、礁溪温泉はアルカリ系の温泉(湯がヌルヌルする感じの湯)で、温泉らしいお湯を楽しめます。また、台湾の温泉宿の多くは、部屋のお風呂でも蛇口から温泉が出てくるのが標準仕様であるため、大浴場の時間を気にせず、じっくりと温泉を満喫出来ることも魅力です。

他には、東部の太魯閣峡谷も、早朝に台北を出発すれば何とか一泊二日圏です。峡谷の素晴らしさは、文章で説明するのが難しいのですが、行けば分かると思います。私も知人がアレンジしてくれて、事前知識も持たずに行ったのですが、絶景でした。なお、峡谷内は交通の便は悪いため、最寄りの花蓮という駅からの現地ツアーを手配した方が楽しめます。

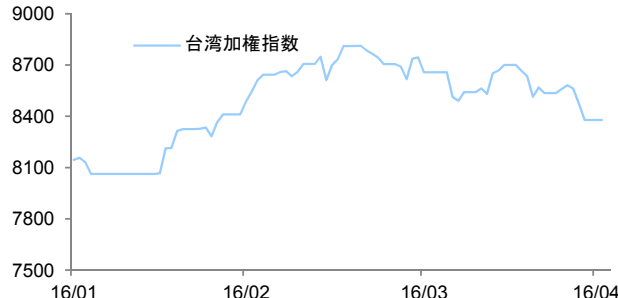
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/7	CPI (前年比)	3月	1.40%	2.00%	2.41%
4/11	輸出 (前年比)	3月	-9.50%	-11.40%	-11.80%
4/11	輸入 (前年比)	3月	-15.00%	-17.00%	-13.10%
4/20	輸出受注 (前年比)	3月	-8.00%	-4.70%	-7.40%
4/22	失業率	3月	3.94%	3.92%	3.94%
4/22	鉱工業生産 (前年比)	3月	-5.50%	-3.57%	-4.15%
4/29	GDP (前年比)	1Q	-0.65%	-0.84%	-0.52%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7550 ~ 7.7650
HKD/JPY 13.80 ~ 14.11

香港資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【4月の香港ドル直物相場】

4月の香港ドルは概ね7.753～7.761のレンジ推移。香港株式市場あるいは人民元相場の落ち着きを背景に香港への資金流入が香港ドルの下値を支えた。また3月に発表された中国の経済指標がいずれも良好なものとなったことも香港ドル上昇の一因となった。

【4月の香港ドル金利】

香港ドル指標金利である3か月物HIBORは米国利上げ以降のサポート水準であった0.55%を下回り下落。一方、米ドル3か月物LIBORは上昇したことからHIBOR-LIBORスプレッドは拡大。一方中期～長期金利は香港インフラ系事業会社による大型起債の影響から大幅上昇。香港ドル5年金利スワップは10bp(1bp=0.01%)程度急騰し、約2か月ぶりの高値となる1.5%付近まで上昇した。

【4月の香港株式市場】

香港ハンセン株式指数は上昇基調を維持し、年初の急落以降初めて節目の21,500ポイントを回復した。原油をはじめとする商品市況の回復等からグローバルにリスクセンチメントが改善したことが背景。

■ 今月の見通し

【5月の香港ドル直物相場】

5月の香港ドルの想定レンジは7.755～7.765とする。米ドル指数の底打ち感からの香港ドル安がメインシナリオ。しかしながら、米国金融政策はハト派姿勢を当面維持すると思われることから米ドルの上値は限定的、結果香港ドルの下値も限定されるであろう。一方、香港株式市場が堅調な展開を継続した場合、香港への資金流入が香港ドルを強力に下支えする可能性も十分にありうる。

【5月の香港ドル金利市場】

香港ドルの短期金利は安定推移が継続すると思われる。3か月HIBORの予想レンジは0.53%～0.57%と見込む。一方、中長期金利については4月同様、起債等の案件を起源とする需給がメインドライバーとなるであろう。金利水準が依然としてそう高くないことから起債の動きが活発化、金利は上昇方向のバイアスがかかりやすいものと考ええる。

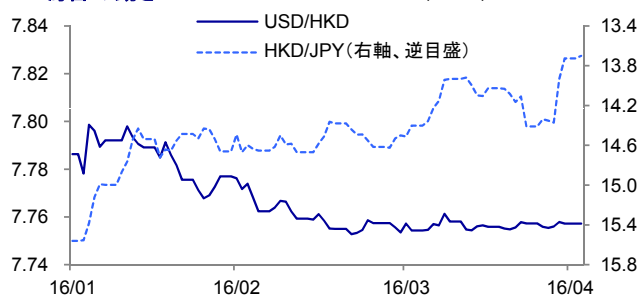
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

【香港1泊2日の観光モデルプラン】

やはり香港といえばおいしい食事ということで外せないのがグルメ体験。一口に「中華料理」といっても、広州、四川、上海、潮州等々実に様々な中華料理が体験できます。特に四川料理は日本では滅多に味わえないような激辛メニューが豊富で、辛党の方には是非ともおすすめしたいところ。一方、香港といえば超高層ビルがそびえる世界有数の人口過密都市とのイメージが強いと思われますが、実は自然も豊富。イギリス統治時代に整備されたトレイルコースが今も残っておりその豊かな自然を満喫できます。近年、日本から香港へのアクセスはLCCの充実等もありかなり良くなっています。金曜日の深夜便を利用すれば週末旅行も可能な香港。次回のご旅行の候補の一つとして香港を含めていただけますと幸いです。

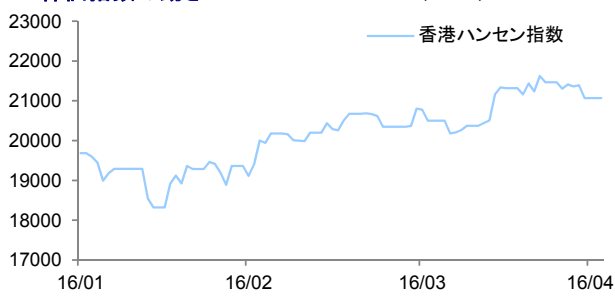
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/6	日経香港PMI	3月	--	45.5	46.4
4/7	外貨準備高	3月	--	\$361.9b	\$359.9b
4/19	失業率(季調済)	3月	--	3.40%	3.30%
4/21	CPI(コンボジット(前年比))	3月	--	3.00%	3.10%
4/26	輸出(前年比)	3月	--	-7.00%	-10.40%
4/26	輸入(前年比)	3月	--	-5.80%	-10.10%
4/26	貿易収支	3月	--	-47.0b	-33.1b
4/29	マネーサプライM1(前年比)	3月	--	-0.30%	11.70%
4/29	マネーサプライM2(前年比)	3月	--	3.60%	8.70%
4/29	マネーサプライM3(前年比)	3月	--	3.60%	8.70%

(資料) ブルームバーク

中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.4000	~	6.6000
	CNY/JPY	16.42	~	18.28
	100JPY/CNY	5.8500	~	6.0901

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 鷲足 知子

■ 先月の為替相場

【為替相場:6.45~6.50で推移。元安圧力は一旦弱まる展開】

4月のドル/人民元相場は横ばい推移。3月末のイエレンFRB議長によるハト派な発言を初め、中旬に公表されたFOMC議事要旨でも複数の議員が4月の利上げは適切ではないとの発言があったことから、ドルインデックスは下落。ドル/人民元も6.45台まで元高が進行。直近は通貨バスケットに従った推移を目指すとの当局関係者の発言どおり、年初に見られた大幅な元安圧力はオンショア・オフショア共に弱まっている状況。3月の外貨準備高が5か月ぶりに増加した事も元安圧力の弱まりを示しているとみられる。月中には原油相場が生産調整への期待感から上昇した事やシンガポールドル高誘導の停止等を受けたドル買いの流れに人民銀行仲値が大幅に元安設定される場面も見られたが、人民元実勢相場への影響は限定的。月末にかけてはFOMCや日銀政策決定会合の結果から、ドルインデックスが上下する動きに合わせて仲値も設定されたが、いずれも大きな動きとはならず、月を通して6.45台~6.51台での小動きにとどまった。

【金利相場:市場流動性はタイト化】

マネー市場では公開市場操作が連日ネット資金吸収となったものの、四半期末を越え、中資系大手行が資金の出し手に回っていることから市場の流動性は保たれており、O/N SHIBORは2.0%割れの水準まで低下。その後、今後のMLF(中期貸出ファシリティ)の満期到来や税金の払い込みに伴う資金需要が意識され、市場の流動性は若干タイト化する局面があったものの、PBoCがMLFによる資金供給を実施したことから流動性は緩和。下旬には、MLFや公開市場操作により大規模な資金供給が実施されたものの、以前実施されたMLFの満期到来や税金の払い込みに伴う資金需要から市場の流動性はタイト化。SHIBORはカーブ全般に亘り上昇。

■ 今月の見通し

【為替相場】

先月のドル/人民元実勢相場は月末の日銀政策決定会合後にドルインデックスが大きく下落した場面では、実勢相場が日中大きく元高に動く場面があったものの、月間の変動率は約1%に収まっている状況。実勢相場は人民銀行仲値に沿った推移を継続。人民銀行仲値についても、当局が昨年12月から公表を開始しているCFETSインデックスに沿った推移となっており、年初からドル安元高トレンドが継続。昨年の人民元水準調整以降、実勢相場は仲値の動きを基準とした推移となっており、年初に見られた元安観測は一旦は収まっている模様。また、資金流出抑制の目的とみられる当局規制も継続していることや、先月末のFOMC後での市場にて米金利引き上げ観測に大幅な変更がなかったことから、元相場は動きづらい地合いが継続することが予想される。先月発表された中国経済指標は比較的に予想を上回る結果が多く、今月についてもその流れが継続となれば人民元相場にはプラスとなる可能性が高い。

【金利市場】

マネー市場では短期金利の上昇傾向が継続。一部では5月から開始される増値税課税対象範囲が明らかになる中で、増値税導入によるコスト高を懸念し、レボ市場等の混乱から短期金利の上昇懸念には注意が必要。短期的な金利上昇懸念もあるものの、当局はMLF及び公開市場操作による資金供給を継続しており、大幅な金利上昇の懸念は小さい状況。

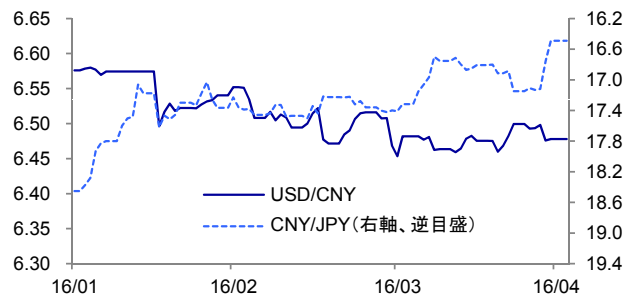
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

当地は東京から飛行機で3時間半と海外としては割りと近距離であることから、会社の方、家族、友人など実に様々な方をお迎えしております。上海は食べて楽しい、見て楽しい、買って楽しいのまさに楽しい事づくめでございます。まずは、食。秋には上海蟹が有名ですが、それ以外にも名物の焼小籠包、上海料理と季節を問わず食を楽しむ事ができます。次に観光。有名所は豫園や人民広場、博物館に外滩(上海を縦断する川沿い)、中国の伝統芸である変面を披露してくれるレストランもあり、2日では足りないかもしれませんね。最後に買い物ですが、新天地や田子坊ではかわいい雑貨やお茶、また中国ならではのグッズが売っており、お土産や自分用の買い物を楽しまれると思います。上海に来た皆様が一様におっしゃるのは、「中国のイメージが変わった」との一言。きっと楽しい時間を過ごせるとおもいますので、是非上海にお越しください。

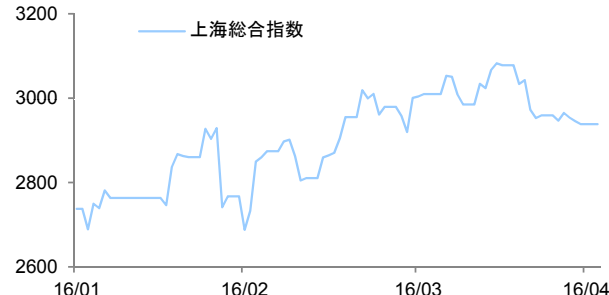
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	製造業PMI	3月	49.4	50.2	49.0
4/13	貿易収支(RMB建)	3月	203.7B	194.6B	209.5B
4/13	輸出(RMB建)(前年比)	3月	14.9%	18.7%	-20.6%
4/13	輸入(RMB建)(前年比)	3月	-4.8%	-1.7%	-8.0%
4/11	CPI(前年比)	3月	2.4%	2.3%	2.3%
4/11	PPI(前年比)	3月	-4.6%	-4.3%	-4.9%
4/15	GDP(前年比)	1-3月	6.7%	6.7%	6.8%

(資料) ブルームバーク

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3350 ~ 1.3750
SGD/JPY 81.00 ~ 82.00

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

■ 先月の為替相場

4月のシンガポールドル(SGD)相場は、シンガポール金融管理局(MAS)による予想外の政策変更を受けて神経質な値動きとなる局面もあったが、概ね持ち合いとなった。

3月終盤は、膨らみつつあった米早期利上げ期待が急速に萎みドル安の流れとなったことで、月初SGDは9か月ぶり高値圏である1.34台後半で始まった。1日に発表された米3月雇用統計は非農業部門雇用者数が予想を上回り、平均時給も上昇するなど悪くない内容だったが、一方で製造業雇用者数が減少したため、一方的なドル高とはならずSGDも小幅下落に留まった。

翌週は、前半は原油価格が下落したことでリスク回避からアジア通貨が売られ、SGDも1.36近辺まで下落した。しかし6日発表されたFOMC議事録が4月利上げは時期尚早であることを確認するハト派的なトーンであったことからドルが反落し、週後半は1.34台半ばから1.35台半ばのレンジ取引となった。

11日の週は、FOMC議事録公表後に下げが加速していたドル円が、ついに108円を割り込んで約1年半ぶりの水準をつけたことで、SGDも1.34台前半へ小幅連れ高となったが、MASの政策発表を週後半に控えてSGDの上値も限られ、13日にはMAS発表前の調整で1.35台前半まで反落した。

14日、MASは2010年4月から継続して来たSGD高誘導を停止すると発表。大方の見方は現状維持でありまったく予想外であったため、発表直後にSGDが1.36台後半まで急落した。しかしSGD売りの流れも長くは続かず、翌15日には早くも反発。17日の主要産油国による増産凍結協議が、イランの不参加表明により決裂の見通しとなり、対主要通貨でドルが売られたことでSGDも連れ高となった。

18日の週は、原油増産の凍結見送りを材料に朝方から原油が急落して始まった。これに対するアジア通貨の反応はまちまちだったが、SGDはリスク回避で買われた円に連れ高となった。しかし原油相場が悪材料をこなして反発に向かい、また熊本地震を受けて日銀追加緩和の思惑が高まったため、円高の流れが反転した後もSGDは上昇を続け、19日には1.33台半ば近辺をつけて9か月ぶり高値を更新した。ただ、20日以降は原油上昇を受けてインフレ期待が強まり、ドル高の流れとなったため、SGDは1.35台後半まで反落。その後は1.35近辺で一進一退の動きとなっている。

■ 今月の見通し

5月のシンガポールドル(SGD)相場は、基本的にはレンジ取引が継続しそうだ。米国の利上げについての思惑、原油相場動向によってはSGD軟調となる可能性もある。

SGD相場は年初に中国不安をきっかけに急落したが、その後は中国不安の落ち着き、原油価格の反発、米利上げのタイミングの先送りなどを材料にSGD高の流れが続いて来た。5月は特段目立つ材料もなく基本的にはレンジ取引が継続しそうだ。SGD高相場が3か月超続いてきただけに、相場のサイクルとしては何らかのきっかけでSGD安相場に転換する可能性を含んでいる。

きっかけとして、米利上げのタイミングについての思惑が考えられる。6月の利上げの有無を巡って、FRB関係者の発言、米経済指標が引き続き注目されるが、利上げの思惑が強まるようだとSGDを含むアジア通貨売りが加速する可能性がある。

原油価格の動向も要注目である。4月の主要産油国会合では増産凍結合意が先送りされたが、5月中に再度会合が持たれる可能性があり、協調増産凍結への期待が強まれば、インフレ期待から米利上げの思惑が強まり、アジア通貨売りとなるだろう。しかし、原油相場の動向は読み難い。4月の会合で合意に至らなかった後も原油相場が急落しなかった所を見ると、原油相場は底打ちしたというのが現在の大方の見方だが、価格が上昇すれば産油国の増産凍結の危機感も薄れるため、不透明感が続く。

シンガポール金融管理局(MAS)のSGD高誘導停止は直接的なSGD安要因ではないが、SGDの上値を押さえることになる。特に今回、景気下振れリスクが顕在化していないタイミングで、MASが予防的な金融緩和を行ったことは異例であり、振り返ってみるとこれが中期的なSGD相場の転換点であったということもあり得るだろう。

SGD上値の目途としては、4月につけた1.33台半ばを上回ることではなく、下値はテクニカル的に1.37台半ばが目途となりそうだ。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』
シンガポール一泊二日！見どころがありすぎて難しいですね。

まずはチャンギ空港から市内までのタクシー道中、左手には観覧車、サンズが見えます。市内到着後、まずは屋台飯。日本人好みなのは、フライドホッケンミー(福建麵)。食欲がないなら粥、ヨントーフ(おでん+麵)、肉骨茶(バクチャー)。そのままセントーサ島へ。USS、巨大マーライオンやカジハに水族館、蠟人形館もあります。建国の父、リー・クアンユー元首相の蠟人形(しかも夫妻セット)が見れるのは世界中ここだけ！

夕飯はクラークキー(クラブ多し)かポートキー(レストラン多し)がお勧め。川沿いのテラス席から見える夜景に感動です。サンズのライトショーは毎日2回(金土は3回)、時間を合わせてご飯にしましょう。

その後も夜景を攻めるならUOBビル屋上【One Altitude】。当行オフィスのあるマリナ地区も高層ビルが多く、フラトンベイ屋上【Lantern】、サンズ屋上の【Ce La Vi】(旧Ku De Ta)あたりもお勧め。

ホテルは高いですが、奮発するならフラトン、ラッフルズ。サンズは早期予約を駆使して3万円から。5千円くらいのHotel81もありますが、私はここに「泊まった」ことのある人間を一人しか知りません。

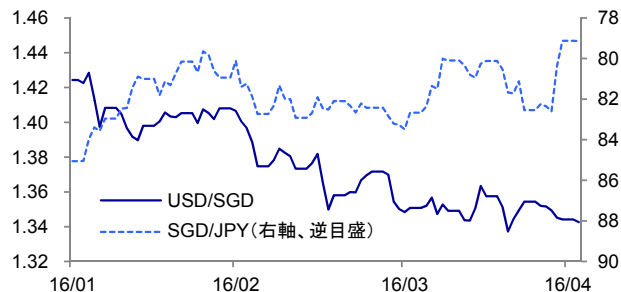
翌朝はリトルインディア・アラブストリートなど如何でしょう。若者ファッション文化の聖地【ハジ・レーン】や激安スーパー【ムスタファセンター】で香水瓶やばら撒き土産を大量購入。

おっと、そろそろフライトの時間です、チャンギ空港へ行きましょう。いや〜、一泊二日は短いですね。

(中野博明)

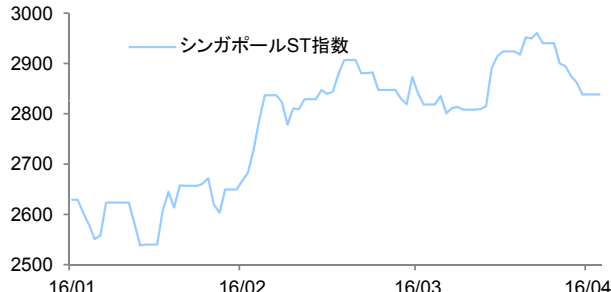
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/4	購買部景気数	3月	48.9	49.4	48.5
4/4	電子機器指数	3月	-	49	48.2
4/14	GDP (前年比)	1Q	1.7%	1.8%	1.8%
4/15	小売売上高 (前年比)	2月	3.4%	-3.2%	7.6%
4/18	非石油輸出 (前年比)	3月	-12.3%	-15.6%	2.0%
4/25	CPI (前年比)	3月	-1.0%	-1.0%	-0.8%
4/26	鉱工業生産 (前年比)	3月	-2.0%	-0.5%	-3.8%

タイバーツ相場

予想レンジ: USD/THB 34.50 ~ 35.50
THB/JPY 3.05 ~ 3.17

バンコク資金室 関 浩士

■ 先月の為替相場

●ドルバーツは下落

4月1日は海外時間に発表された米3月雇用統計の内容が良好だったことから、35.20バーツ台までドル買いが一時的に進行した。4日は前週の雇用統計を受けてアジア通貨が全般的に弱含む展開となる中、ドル/バーツも35.30バーツ台を試し、5日には発表された3月の消費者信頼感指数が3か月連続で悪化すると35.40バーツ台を試す等、バーツ売り優勢の展開が継続した。6日はタイ市場は休場であったが、海外時間に3月のFOMC議事要旨が公開され、内容が比較的ハト派なものだったことからドル売り圧力が高まると、ドルバーツは下落に転じ、7日には35.10バーツ台半ばでの取引となった。その後、35.00バーツ近辺でのレンジ推移が続いたが、14日に、シンガポール金融管理局が通貨高誘導の停止を決定、シンガポールドルが急落する動きになるとドル/バーツも連れて35.20バーツ近辺まで急伸する展開となった。然しながらオンショア市場が休場で薄商いの中、上値追いはならず、翌15日には中国1〜3月期GDP等の底堅い結果を受けると、再び35.00バーツ近辺まで下落した。19日に原油価格の回復を背景としてリスクセンチメントが改善すると、アジア通貨全般が強含む展開となり、ドル/バーツは35.00を割り込み、34.80バーツ近辺まで下落。20日にはドル売りが継続し、タイ中銀(BOT)から「バーツ相場の変動がタイ経済に影響を与えるようなら行動する用意がある」との発言もあり、介入期待に34.90バーツ台まで戻す場面も見られたが、勢いは続かず、再び34.80バーツ台まで下落。21日には前日に、「5月にロシアで産油国会合を開催する」との話が伝わり原油価格が上昇する動きとなると、ドル買い優勢となり、中銀の介入とも思われるドル買い優勢な地合いが継続すると35.10バーツ近辺まで上昇した。

月末週はFOMC、日銀政策決定会合とイベントを控え、35.10バーツ近辺での小幅な値動きが続いたものの、28日の日銀会合の結果を受けてドル売り円買いが優勢となると、他のアジア通貨でもドル売りが先行。ドルバーツは35.00バーツ割れを試す展開となると、月末には一時34.90バーツまで下落した。

■ 今月の見通し

●ドルバーツの下値は限定的か

米国の利上げ観測が後退する中、ドル/バーツは4月に35バーツ台を割れて下値リスクが高まった。4月28日のFOMCでは、FRBの利上げペースを下方修正させた最大の要因である「世界経済と金融情勢」については、今回の声明文では警戒トーンが弱まっており、その点では声明文は前回に比べてタカ派になったと言える。然しながら、米国内の経済・インフレ動向については、やや下方修正されており、結果、6月利上げの可能性を残しつつも、早期に利上げを行う必要は無いという内容になっており、今回のFOMC声明文がドル相場に明確なトレンドを与えることは無さそうであり、目先ドルバーツを動かすには力不足かもしれない。

一方、実需に関してはバーツ買い要因が多い。輸入額の減少を受けて貿易黒字額が大きく増えている他、タイセト取得に向けた海外からの資金流入も債券市場を中心に年初からほぼ一本調子で続いている。過度にバーツ高が進行しないのは、外貨準備残高が年初から激増していることから推察できるように、ドル/バーツ市場への介入が底抜けを押さえているものと思われる。週次で公開されるBOTの資料によると、年初の外貨準備残高は1560億ドルであったのに対し、3末時点は1730億ドルと、実に10%近い伸びとなっている。金額にすると増加額は170億ドル相当となり、1月、2月の貿易黒字額(合計86億ドル)、年初からの債券・株式市場への海外からの資金流入額(合計58億ドル)を合計した金額を上回る。成長エンジンである輸出セクターが弱含む中、過度なバーツ高相場が許容されることは考えにくく、バーツ高に振れたとしてもドル/バーツの下値は限定的となる可能性が高いと思われる。干ばつ被害が深刻化しており農家収入の減少も今後想定され、タイ国内の消費環境は厳しい状況が続いている。タイ選挙管理委員会は、憲法起草委員会がまとめた新憲法草案の賛否を問う国民投票について、8月7日の実施発表をしているが、草案については、予てよりタクシン元首相派のタイ貢献党に加えて反タクシン派の民主党も批判している状況であり、草案反対の動きが想定される。政府は「あらゆる種類の運動を禁止する」と警告しており、今後の政情不安も想定されよう。

こもと下落基調にあったドルバーツ相場であるが、BOTの介入期待に上昇する場面も見られており、底堅い推移となりそうだ。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

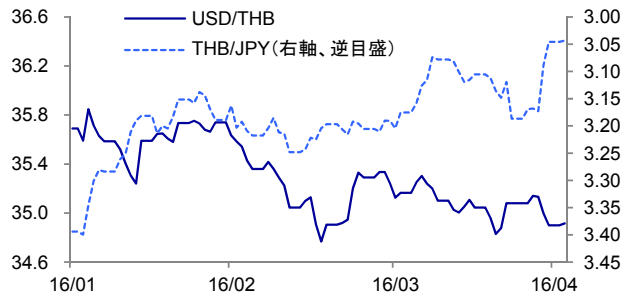
当資金室の旅行大好き駐在員にお勧めを確認しましたところ、まずは「チェンマイのロイクラトン祭り」。これは定番中の定番として絶対に行くべしとのことです。毎年10月〜11月の満月の夜、川の恵みへの感謝の気持ちを表し、ロウソク、線香、花などで美しく飾られたクラトン(灯籠)を川に流す「ロイクラトン」と呼ばれるお祭りがタイ全国各地で行われます。チェンマイのロイクラトン祭りはコムローイと呼ばれる熱気球を天に放つことで有名ですが、何千ものコムローイが夜空に舞う様子は幻想的でロマンチックです。環境保護の高まりに、その継続が危ぶまれているそうなので、今のうちに行っておく価値はありそうです。ちなみに、2016年度のロイクラトン祭りは11月14日に決定しております。

もう一つのお勧めは、バンコクから車で2時間半のホアヒン。もともとホアヒンは王室の保養所として有名な観光地なのですが、是非観光に行っておきたい場所が、ブヤーナコーン洞窟にある「クーハークルハット宮殿」とのこと。ホアヒンから約1時間のところにあるラーマ5世によって作られたクーハークルハット宮殿は、洞窟の上部に開いた穴から太陽の光が差し込む光景が神秘的だそうです。天から差し込む光は、AM:10:00〜AM12:00までの間にしか降り注がないので要注意です。

そして最後に彼が今狙っている場所が、タイ東北部イサーン地方にある「ブークラドゥン」。タイ人が一生に一度は登りたい山と言われており、山頂から朝日を迎える絶景は、言葉にできない感動とのことです。タイスタッフに聞いてみたところ、「40歳代では地獄。若くないと無理だ」、「登頂するには事前に1ヶ月ぐらいはトレーニングが必要だ」等、ハードルはかなり高そうです。一泊二日で行けるか聞いたところ、「無謀」との事でしたので、本来対象外ですがご参考までです。

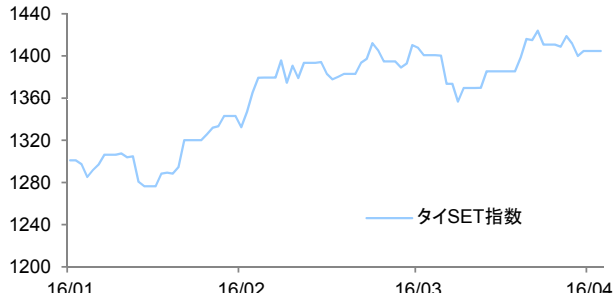
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	CPI (前年比)	3月	-0.43%	-0.46%	-0.50%
4/5	消費者信頼感	3月	-	73.5	74.7
4/25	通関輸出(前年比)	3月	-4.70%	1.30%	10.27%
4/25	通関輸入(前年比)	3月	-11.20%	-6.94%	-16.82%
4/25	通関貿易収支(USD)	3月	\$2800M	\$2966M	\$4986M
4/25	自動車販売台数	3月	-	72646	57093
4/29	製造業生産指数	3月	-0.3%	1.8%	-1.6%
4/29	設備稼働率指数	3月	-	72.5	65.7
4/29	経常収支	3月	\$4635M	\$4952M	\$7401M

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 3.85 ~ 4.00
MYR/JPY 26.00 ~ 28.44

アジア・オセアニア資金部 宮地 崇

■ 先月の為替相場

先月のリングは3.89台前半でオープン。オープン後、月初に発表された米3月雇用統計が予想をやや上回る内容であったものの、前月のイエレンFRB議長の本格的な内容が上方修正される程ではないとの見方が広まり、ドル売りが優勢となる展開。一旦リングは対ドルで3.86台半ばまで上昇。しかし、同レベルでは底堅くドルの買い戻しが入り、3.95台まで反落。

翌週には、しばらくレンジ内での取引が続いたが、12日の海外時間でロシアとサウジアラビアが原油増産凍結で合意との報道から、原油価格が大幅上昇。この動きを受け、翌13日には、リングは約8か月ぶりとなる3.8470を付けた。ところが、17日に開催予定であった産油国会議での増産凍結合意に対する期待感が薄まるにつれ、原油価格も伸び悩みリングの上昇圧力も後退。週末にかけて3.90台まで軟化した。

月後半に入ると、注目されていた産油国会議にてイランの不参加を理由にサウジアラビアが増産凍結に反対したため、最終合意には至らず。この結果を背景に、原油価格が下落したことで、週明けのドルリング相場も大きく反応。一時、リングは3.96台前半まで急落した。しかし、クウェート石油労働者組合によるストライキの影響から、同国の産油量減少が報じられたことも手伝い、原油価格が反発。19日にはリングは3.85台前半まで値を戻した。その後、20日に発表されたマレーシア3月消費者物価指数が低下するとリングはやや弱含む展開。同日にイラク副石油相が5月にロシアで産油国会合が開催される可能性があると発言に、原油価格が続伸するも、リング相場への影響は限定的。むしろドル買いの動きに連れられ、3.91台半ばまで下落した。

月末週には、マレーシア政府系投資会社がイスラム債の利払いを実行できずとの報道にリングは3.95台前半まで続落。しかし、注目の米FOMCにて金融政策の現状維持が発表されるとドル売りの流れが強まり、リングは3.88台割れまで買い戻された後、やや小緩み3.91台前半でクローズした。

■ 今月の見通し

今月のリング相場は、リングの上値の重い展開を予想する。

先月、発表されたマレーシア2月の輸出額は2か月ぶりに前年を上回る伸びを見せた。主力の電子部品や機械では、まだ本格的な回復には至らないものの、一部石油製品や天然ガスでは底打ち感も見られた。2月の貿易収支も前月から黒字幅が拡大していることは、マレーシア経済の見通しに安心感を与えることとなる。加えて、鉱工業生産についても、昨年11月からはじわりと上昇傾向を示しており、底堅い同国のファンダメンタルズはリングの下値をサポートするものと思われる。

一方、これまでリングの上昇要因となっていたと思われる債券市場への資金再流入の動きが足許一服。マレーシア10年長期国債の価格は4月中旬以降やや軟化しており、年初から4月まで海外投資家を中心としたマレーシアへ資金の再投資の勢いはやや鈍りつつあるものと思われる。債券市場の動向が従来の勢いを失うこととなれば、リングの大きな上昇材料の剥落を意味することとなる。

また、原油価格動向については、先月17日にドーハで開催された産油国会議では原油増産凍結の合意には至らなかった。6月にOPEC総会が予定されているものの、今回の結果を見る限り、画期的な合意が結実する可能性は低そうだ。そうすると、原油価格の更なる続伸は考えづらく、これまでと同じくマレーシアリングの上値を抑える要因となる。

最後に、これまで16年間マレーシア中銀(BNM)の舵取りを担ったゼティ総裁が4月末に退任。後任人事に注目が集まっていたが、4月末にイブラヒム副総裁の同中銀総裁就任が決定。これまでのゼティ路線が踏襲される公算が大きくなったことは、投資家のマレーシアに対する警戒スタンスの緩和に寄与することになる。

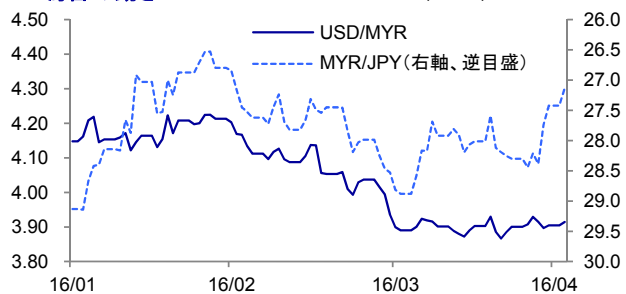
基本的に今年前半からリング高をけん引してきた資金再流入の一服と原油価格の上伸が予想しづらい状況下、リングの上値は重くなるものと予想。尚、今月は、13日に1～3月期GDP、18日にBNMの金融政策決定会合と材料が目白押しであり、その結果には注目したい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

当地に赴任して以降、1泊2日の旅行をしたことがない為、クアラルンプールを起点としたプランをいくつか考えてみました。
クアラルンプール市内・・・世界主要都市と比べて高級ホテルが比較的安いので、ちょっとした週末に泊まってみるというのもありかもしれません。ランカウイ島・・・飛行機で1時間ちょっと。基本的に海には入れませんが、ホテルでまったり、或いはマングローブツアー等、相応のアクティビティも楽しめます。レダン島、ティオマン島・・・マレーシア半島東側にあるこの島達には直行便がない為、最寄の空港から港に車を走らせ、そこからフェリーですが、とても美しいと評判です。キャメロンハイランド・・・名前の通り、高地にあり涼しく、紅茶が採れることでも有名です。行くとするとバスのツアーか車です。コタキナバル・・・キナバル山は1泊では無理ですが、ジャングル系のアクティビティや動物観察にはうってつけです。イポー・・・水が綺麗と言われている非常に中華料理が美味しいと評判。近くでラフティングもできるみたいです。ペナン、マラッカ・・・コロニアルな雰囲気の残る建造物があり、歴史情緒を感じることができます。ミリ・・・自然世界遺産登録された超巨大洞窟を探索できます。クチン・・・猫博物館がある等、猫好きにはたまらない。シンガポール・・・お金さえ気にしなければ隣の都市国家も気軽に旅行スポットでしょう。。ブーケット、サムイ島・・・言わずと知れたタイのビーチリゾートです。書きながら気付いたのが、赴任して2年が経過したにも関わらず殆ど国内旅行をしていないということです。きっと他にもいろいろ穴場もあるかもしれません。でもビーチリゾートは折角だったら2泊以上は最低したいですね。。

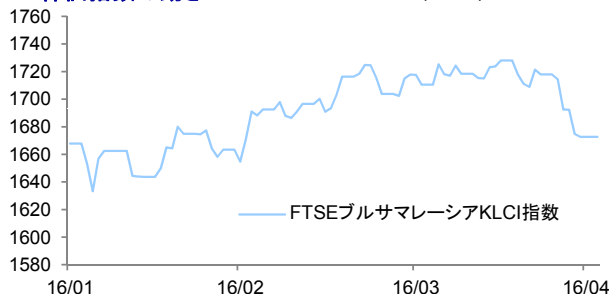
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/6	輸出 (前年比)	2月	2.9%	6.7%	-2.8%
4/6	輸入 (前年比)	2月	-1.5%	1.6%	3.3%
4/6	貿易収支 (MYR)	2月	6.80b	7.35b	5.39b
4/11	鉱工業生産 (前年比)	2月	3.9%	3.9%	3.2%
4/20	消費者物価指数	3月	3.4%	2.6%	4.2%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13000 ~ 13500
 IDR/JPY 0.81 ~ 0.84
 JPY/IDR 118.73 ~ 123.80

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア業務部 小泉 聡

■ 先月の為替相場

4月のドル/ルピアは小動きとなり、13100～13250レベルの狭いレンジ内での取引が続いた。

終始材料難の展開となり、13日にシンガポール当局がシンガポールドル高誘導を廃止し、ルピアが連れ安となった場面があったが、値動きは限定的となった。また、主要経済指標であるインフレ率・貿易収支・外貨準備高も無難な結果で着地した。

一方、円高が進行したため、円/ルピアは一時1円=121ルピアを上回り、昨年10月上旬以来の円高・ルピア安水準まで上昇した。

21日に開催されたインドネシア中銀定例会合では、事前予想通り中銀ターゲットレートの据え置きを決定。ただインドネシア中銀は本会合以前に今年8月から政策金利を現状の中銀ターゲットレートから1週間ものリバース・レポ金利に変更することを正式に発表しており、ベンチマーク金利変更前の利下げは考えにくいといった見方もあったようだ。

■ 今月の見通し

今月もルピアは小動きとなるか。

4月のドル/ルピアは近時では珍しく落ち着いた相場となったが、今月もルピア相場を動かす材料に欠ける月となりそうだ。

ただ、相場はこう着状態が永続することは無く、むしろこう着相場後の相場は急変することが多いため、引続き米金融政策動向や中国の景気動向等の外部要因やリスクオン・リスクオフの流れには留意しておきたいところだ。

ドルルピアは13000がサポートライン、13300付近がレジスタンスラインとなっており、これらの水準を割り込む、あるいは上抜ける場面があれば、その後の値動きは急になる可能性がある。

また、今月9日に2016年度第1四半期GDP、13日には同国際収支と経常収支が発表予定であり、インドネシア全体の景気動向を占う上でも注目しておきたい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

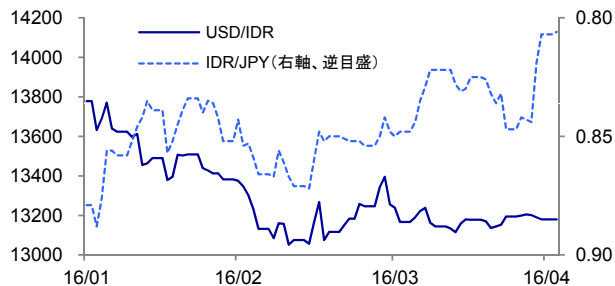
はっきり言って、ジャカルタの観光は半日あれば十分だと思います。一度インドネシアのガイドブックをご覧頂ければお分かりいただけますが、ガイドブックの大半はバリ島のページで占拠されており、首都ジャカルタは数ページに留まっています。

数ページで全てを網羅する位、ジャカルタには観光的名所がございません。あえて挙げるとすれば、モナス(独立記念塔)やモスク、博物館でしょうか。つまり、ジャカルタはオフィス街なのです。

逆に観光地でないがために一度ジャカルタを見てみるのも良いかもしれません。それでも一泊は必要なく、午前中にジャカルタを回り、午後にバリ島やジョグジャカルタへ移動するのが妥当な感じがします。

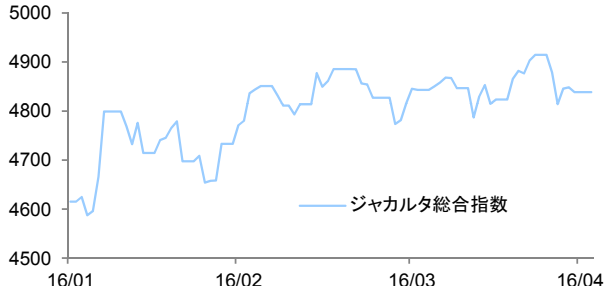
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	CPI(前年同月比)	3月	4.50%	4.45%	4.42%
4/7	外貨準備高(USD B)	3月	-	107.50	104.54
4/15	貿易収支(USD M)	3月	465	497	1,136
4/21	インドネシア中銀ターゲットレート	4月	6.75%	6.75%	6.75%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 46.00 ~ 47.50
PHP/JPY 2.30 ~ 2.38

マニラ支店 杉山 泰憲

■ 先月の為替相場

4月1日のドル/ペソは45.95で取引開始。米雇用統計の発表を控えて小動き。46.01で越週となった。同夜発表の米3月雇用統計は予想を上回る強い内容ながら、利上げに対する当局のスタンスを変えるほどの強さではないとの受け止め方で、結果ドル安基調を招くことになり、4日(月)のドル/ペソは46.00で取引を開始し45.97まで下落。同夜にイラン石油相が増産凍結に参加しないと発言したことで原油価格が下落。翌5日(火)はリスク回避のドル買い優勢となって46.27まで上昇。6日(水)は前夜発表の米ISM非製造業景況指数が良好であったことからのドル買いで46.34まで上げるものの、同夜のFOMC議事録でのハト派寄りの文言が確認されたことから、に7日(木)はドル安となって46.10台での推移。8日(金)は動意薄くそのまま46.135で越週となった。

11日(月)は46.12で取引再開。米利上げ観測が遠くの中、ドル安の流れにドル/ペソもドル安基調で始まり12日(火)には46.015までのドル安・ペソ高に。サウジ・ロシアの増産凍結合意報道及び中国の良好な貿易統計に13日(水)はさらに45.90ペソまでのペソ高に。しかし14日(木)朝方にシンガポール通貨庁が現状のシンガポールドル高誘導を放棄、中立スタンスに移行する旨を発表するとシンガポールドルが急落。ペソもつられてのペソ売りとなり46.31ペソまで。しかし15日(金)は前日の米3月CPIのさえない結果からドル安地合いに逆戻り。46.10台でのみ合いの後1ドル=46.06ペソで越週。

18日(月)は1ドル=46.15ペソで取引開始。特段の材料なく、46.00~46.10ペソ台でのみ合いが続く。20日(水)のアジア時間に、クエートでの大規模なストライキが終了したことを受けて原油価格が下落するとリスク回避的な動きが高まり、ドル/ペソではドル買いが優勢になって46.20ペソ台まで上昇。同夜発表の米国経済指標からインフレ期待が高まり米国債券が上昇すると、翌21日(木)はドル高となって46.44ペソまでの上昇。翌22日(金)もそのまの流れてドル高基調を保ち46.68ペソまで上昇。46.65ペソで越週となった。

■ 今月の見通し

4月後半の原油価格の上昇から米国でのインフレ期待が高まることになり、米長期金利が上昇。結果、アジア通貨では全般的にドルが買い戻され、ドル/ペソも46ペソ前半から47ペソ直前までドル高・ペソ安となっている。

しかし、これは単にドル金利上昇からのドル高というよりは、5月9日(月)が投票日となるフィリピン大統領選挙が意識されてのペソ安が進行との側面が大きい。

フィリピン大統領選挙は候補者5名の混戦状況であることは変わらないものの、直近の世論調査では元ダバオ市長のドゥテルテ氏と、上院議員のポー氏が上位を占めるようになっており実質的に2者に絞られてきた感がある。しかし、選挙巧者と言われている元副大統領のビナイ氏がこのまま引き下がると思えず、元内務相のロハス氏はアキノ大統領のバックアップを受けて奮戦中。サンチャゴ氏は女性層にかなり人気を伸ばしているとのうわさもある。

フィリピンにおける大統領は非常に権限が大きく、いろいろなことが大統領次第で変わる可能性が大きい。大統領選挙後のフィリピンの経済政策がどのようなものになるのかが、もっとも気になるところだが、ドゥテルテ氏はダバオ市での治安安定や行政の迅速化等実績があるものの、国政経験がないことから未知数。ポー氏も国政経験が3年間と短く実力のほどはわからない。先が読めるのは現政権の継承を主張しているロハス氏のみ。しかし彼が当選する可能性は非常に低い状況。

フィリピン経済そのものは国内個人消費を牽引役上好調を維持しており、OFW送金は月によるばらつきが大きくなってきているものの総じて堅調に推移。米国の利上げ観測が後退している中、なにもなければペソ高基調をたどると思われるが、過激な発言が多いドゥテルテ氏が大統領となれば、やはり最初はペソ安で反応することになる。ポー氏、ビナイ氏、ロハス氏であればドル/ペソ為替市場には大きな波乱なく、ペソ高基調を保つものとみている。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地での一泊二日観光モデルプラン』

マニラは友人が来ても案内できる観光名所がほとんどない、といのは悩みの種。国内線の飛行機に乗ってセブやボホール、ボラカイやパラワンに行けば素晴らしいビーチで至福の時を過ごせますが、一泊二日じゃもったいない。

いずれにせよ、行先は海しかないのですが、マニラがあるルソン島は岩がちでビーチが少ないのも困りものです。

北に車で5時間程度走って、サーフィンができるLa Union かBaler。

南に車で3時間程度走ればダイビングが楽しめるAnilao。Batangas港からミンドロ島に船で2時間程度渡れば、ダイビングもよし、ビーチもよしのPuerto Galera にたどり着きます。

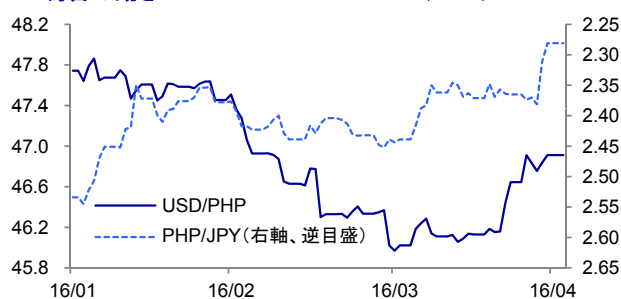
東に車で15時間走るとレガスピでジンベイザメと一緒に泳げるようですが、さすがに一泊二日では厳しい。

海は嫌だと言われてしまうと、北に7時間ほど走ったところに棚田で有名なBanaueにも行けませんがこちらは一泊二日ではかなりの強行軍になるようでお勧めはできませんね。

ホテルのプールサイドでビールかワインを飲んだくれているのが一番だと思います。結局。

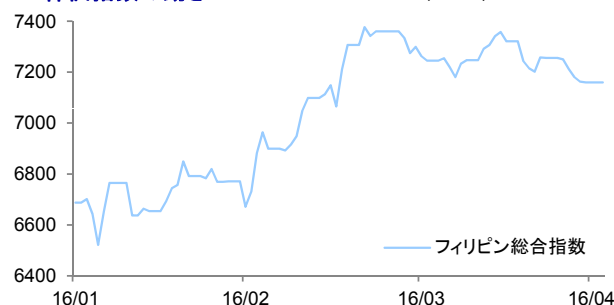
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/5	CPI (前年比)	3月	1.1%	1.1%	0.9%
4/7	外貨準備高	3月	-	826億ドル	813億ドル
4/12	輸出 (前年比)	2月	-3.2%	-4.5%	-3.9%
4/15	OFW送金額	2月	-	21.1億ドル	20.2億ドル
4/15	OFW送金 (前年比)	2月	4.0%	9.1%	3.4%
4/19	総合国際収支 (USD)	2月	-	854M	-316M
4/26	貿易収支 (USD)	2月	-1,500M	-1,104M	-2,638M

(資料) ブルームバーク

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 65.00 ~ 68.00
INR/JPY 1.60 ~ 1.68

アジア・オセアニア資金部 中野 博明

■ 先月の為替相場

4月のルピー相場は66台で方向感なく推移した。

1日に発表された3月米国雇用統計の良好な結果にも関わらず、ドルが下落。この流れを受けて、4月はルピー高にて取引開始。4日にはドル/ルピーは一時66ちょうど近辺まで下落。

5日には予想通りインド準備銀行(RBI)は政策金利を25bp引き下げすることを発表。流動性供給に係る規制を一部緩和するとともに、市中銀行がRBIに預け入れる金利を25bp引き上げ、市中銀行がRBIから借り入れる金利を75bp引き下げた。予想通りの結果となったことで、相場への影響は限定的。イラン石油相が主要産油国による増産凍結に当面参加しない旨を表明したことで、原油安が進行し、ルピーを含む新興国通貨安の展開となった。ドル/ルピーは8日には66台後半まで上昇。

その後ドル/ルピーは66台中盤を方向感なく推移。

インド休日明けは原油高も手伝ってリスク回避ムードが緩和され、ドル/ルピーは一時66台前半まで下落。

しかしながらその後ドル/ルピーは再び66台中盤まで戻している。

■ 今月の見通し

5月のルピー相場は、66～67を中心とした方向感のない展開が継続すると予想。

RBIは政策金利を引き下げ、市中銀行が中銀から資金を借り入れる時の金利を75bp引き下げ、市中銀行が中銀に資金を預け入れる時の金利を25bp引き上げた。これにより、市中金利の上限と下限(金利コリドー)は従来の200bpから100bpに低下、金融政策の変更をよりダイレクトに反映させられるようになると予想。

加えて、準備預金に係る規制を緩和。市中銀行の資金繰りに余裕が生まれることとなり、今後、オーバーナイト金利の変動幅が小さくなると予想する。

インフレ率は前月と比較し小幅下落。RBIは今後2年間のインフレ率は5%程度で安定的に推移すると見込んでいる。政策金利が依然6%を超えていることを考えると、政策金利からインフレ率を引いた実質金利は依然プラス、金利引き下げ余地はまだあるものと予想するが、原油価格が安定し、リスクセンチメントが和らいでいる現在の状況では、当面RBIは現在の政策を継続すると予想。

現在ほとんどの新興国通貨、資源国通貨は米国経済予想および原油価格の価格動向に左右される状況となっている。米国経済回復への信頼感が醸成されるまで、一進一退の動きが継続するものと予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

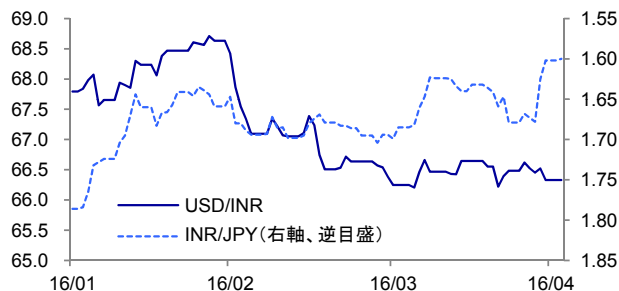
『当地での一泊二日観光モデルプラン』

当地に友人が遊びに来たという仮定でプランを立ててみました。まず1日目の朝は世界遺産クトゥブミナールからスタート。公園のような敷地内にどでかい塔(73m、飛行機からも見えます)といくつか遺跡がちらばっているだけの場所ですが、のんびりしているし無駄にお金を使わせようという人がいないので、気楽に過ごせます。ランチは、和食ならずそばのEn、インド料理がお好みであれば、SaketのSelect City Walk・Punjab Grillでナンやタンドール料理が、またモールすぐそばのRajdhaniでタリーが楽しめます。午後は暑気を避け、モール併設の映画館で Bollywood 映画を鑑賞。本数はインド映画に負けるもののハリウッド映画も上映しています。体力が回復したら、夕方からショッピングへ。今時のデリーっ子が多いのはHauz Khas Village、観光客が多く、有名店が揃っているのはKhan MarketやGKI・Nブロックマーケットなど。2日目は早朝にデリーを出発し、アグラまで高速道路を飛ばして3時間、タージマハルを観光。ランチは正直あまり選択肢がないので、ガイドブックのお店にいくか、インド料理以外が良ければ近辺の5つ星ホテルが良いでしょう。そのあとデリーまで戻ってきたら、若干疲れ始めた体を癒すべくアーユルバーダトリートメントを。油を頭部へ落とすシロダーラーは、上手な人だと本当に気持ちが良いとお勧めです。最後はホテルでゆっくりHigh Teaを楽しむかライブを楽しむながらディナーで。て。

・・・デリーに限らず各地見どころ、良い土地があちこちあるので、本当に友人が来るならば、もっと滞在しなよと説得するところからスタートしてしまいいそうです。(ニューデリー支店・藤井)

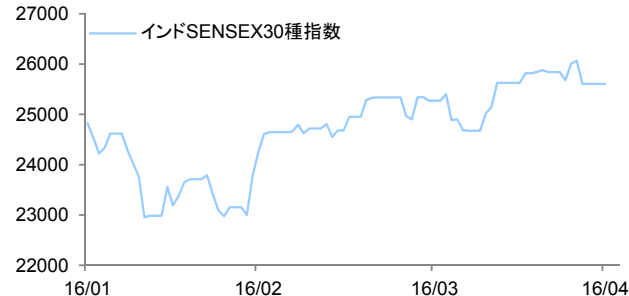
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

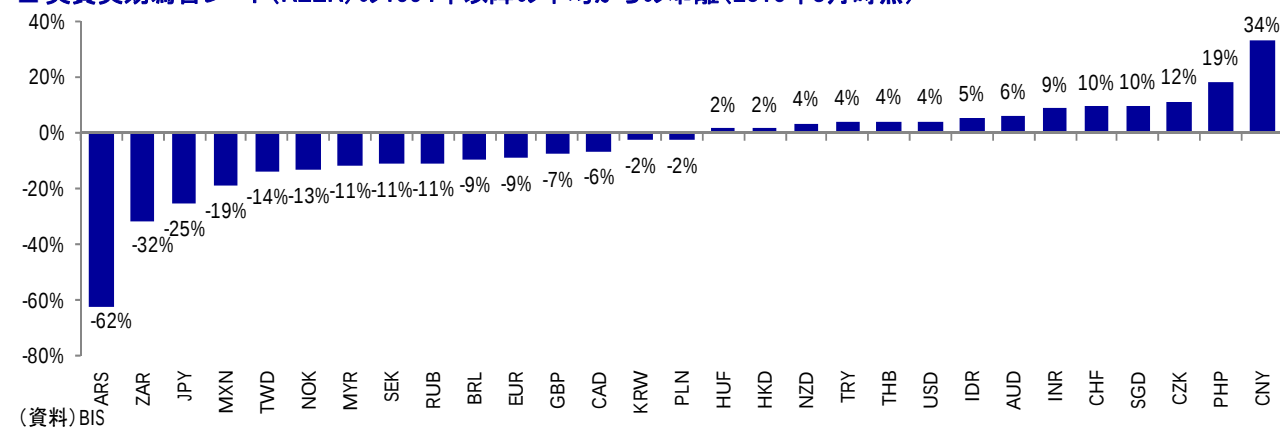
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/4	日経インドPMI製造業	3月	-	52.4	51.1
4/5	政策金利		6.50%	6.50%	6.75%
4/6	日経インドPMIサービス業	3月	-	54.3	51.4
4/6	日経インドPMIコンポジット	3月	-	54.3	51.2
4/12	鉱工業生産(前年比)	2月	0.8%	2.0%	-1.5%
4/12	消費者物価指数(前年比)	3月	5.00%	4.83%	5.26%
4/18	卸売物価(前年比)	3月	-0.70%	-0.85%	-0.91%
4/18	輸出(前年比)	3月	-	-5.5%	-5.7%
4/18	輸入(前年比)	3月	-	-21.6%	-5.0%
4/18	貿易収支	3月	-\$ 6.7B	-\$ 5.0B	-\$ 6.5B

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2015年末	2016年4月末	騰落率	株式市場	2015年末	2016年3月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	17425.03	17773.64	2.0%	-
日本	USD/JPY	120.22	106.5	-11.4%	日経平均株価	19033.71	16666.05	-12.4%	-1.2%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0862	1.1451	5.4%	ドイツDAX指数	10743.01	10038.97	-6.6%	-6.6%
英国	GBP/USD	1.4736	1.4612	-0.8%	ロンドンFTSE100指数	6242.32	6241.89	0.0%	0.8%
豪州	AUD/USD	0.7286	0.7603	4.4%	S&P/ASX200指数	5295.9	5252.217	-0.8%	-5.0%
カナダ	USD/CAD	1.3839	1.2556	-9.3%	S&PTロント総合指数	13009.95	13951.45	7.2%	18.2%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.4937	6.478	-0.2%	上海総合	3539.182	2938.323	-17.0%	-16.8%
香港	USD/HKD	7.7507	7.7572	0.1%	香港ハンセン	21914.4	21067.05	-3.9%	-3.9%
インド	USD/INR	66.1537	66.33	0.3%	インドSENSEX30種	26117.54	25606.62	-2.0%	-2.2%
インドネシア	USD/IDR	13788	13180	-4.4%	ジャカルタ総合	4593.008	4838.583	5.3%	10.2%
韓国	USD/KRW	1175.06	1139.4	-3.0%	韓国総合株価	1961.31	1994.15	1.7%	4.9%
マレーシア	USD/MYR	4.2943	3.9045	-9.1%	ブルサマレーシアKLCI	1692.51	1672.72	-1.2%	8.7%
フィリピン	USD/PHP	46.905	46.912	0.0%	フィリピン総合	6952.08	7159.29	3.0%	3.0%
シンガポール	USD/SGD	1.4185	1.3442	-5.2%	シンガポールST	2882.73	2838.52	-1.5%	3.9%
台湾	USD/TWD	32.862	32.27	-1.8%	台湾加権	8338.06	8377.9	0.5%	2.3%
タイ	USD/THB	36.03	34.9	-3.1%	タイSET	1288.02	1404.61	9.1%	12.6%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2016年3月時点)



■ 実質GDP成長率

	2014Q3	2014Q4	2015Q1	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2014	2015
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	4.3	2.1	0.6	3.9	2.0	1.4	0.5	2.4	2.4
日本*	-2.5	2.2	4.6	-1.4	1.4	-1.1		0.0	0.5
ユーロ圏	0.8	1.0	1.3	1.6	1.6	1.6	1.6	0.9	1.6
英国	2.8	2.8	2.6	2.4	2.2	2.1	2.1	2.9	2.3
豪州	2.6	2.2	2.2	2.0	2.7	3.0		2.6	2.5
カナダ*	2.1	3.4	-0.9	-0.4	2.4	0.8		2.5	1.2
エマージングアジア									
中国	7.1	7.2	7.0	7.0	6.9	6.8	6.7	7.3	6.9
香港	3.1	2.5	2.4	2.9	2.2	1.9		2.6	2.4
インド	8.3	6.6	6.7	7.6	7.7	7.3		7.2	
インドネシア	5.0	5.0	4.7	4.7	4.7	5.0		5.0	4.8
韓国	3.4	2.7	2.4	2.2	2.8	3.1	2.7	3.3	2.6
マレーシア	5.6	5.7	5.6	4.9	4.7	4.5		6.0	5.0
フィリピン	5.5	6.6	5.0	5.8	6.1	6.3		6.1	5.8
シンガポール	3.1	2.8	2.7	1.7	1.8	1.8	1.8	3.3	2.0
台湾	4.3	3.6	4.0	0.6	-0.8	-0.5	-0.8	3.9	0.8
タイ	0.9	2.1	3.0	2.7	2.9	2.8		0.9	2.8

(注) インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	15/09	15/10	15/11	15/12	16/01	16/02	16/03	2014	2015
	(%)							(%)	
先進国									
米国	5.1	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	5.0	6.2	5.3
日本	3.4	3.2	3.3	3.3	3.2	3.3	3.2	3.6	3.4
ユーロ圏	10.6	10.6	10.5	10.4	10.4	10.4	10.2	11.6	10.9
英国	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	5.1		6.3	5.4
豪州	6.1	5.9	5.8	5.8	6.0	5.8	5.7	6.1	6.1
カナダ	7.1	7.0	7.1	7.1	7.2	7.3	7.1	6.9	6.9
エマージングアジア									
中国	4.1			4.1			4.0	4.1	4.1
香港	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.2	3.3
インドネシア								5.8	6.0
韓国	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	4.1	3.8	3.5	3.6
マレーシア	3.2	3.1	3.2	3.4	3.4	3.4		2.9	3.2
フィリピン		5.6			5.8			6.8	6.3
シンガポール	2.0			1.9				2.0	1.9
台湾	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.8
タイ	0.8	0.9	0.9	0.7	0.9	0.9	1.0	0.8	0.9

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	15/10	15/11	15/12	16/01	16/02	16/03	16/04	2014	2015
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	0.2	0.5	0.7	1.4	1.0	0.9		1.6	0.1
日本	0.3	0.3	0.2	0.0	0.3	-0.1		2.7	0.8
ユーロ圏	0.1	0.1	0.2	0.3	-0.2	0.0	-0.2	0.4	0.0
英国	-0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.5		1.5	0.0
豪州			1.7			1.3		2.5	1.5
カナダ	1.0	1.4	1.6	2.0	1.4	1.3		1.9	1.1
エマージングアジア									
中国	1.3	1.5	1.6	1.8	2.3	2.3		2.0	1.4
香港	2.3	2.3	2.4	2.5	3.0	2.9		4.4	3.0
インド	5.0	5.4	5.6	5.7	5.3	4.8		6.4	5.9
インドネシア	6.3	4.9	3.4	4.1	4.4	4.5		6.4	6.4
韓国	0.9	1.0	1.3	0.8	1.3	1.0		1.3	1.3
マレーシア	2.5	2.6	2.7	3.5	4.2	2.6		3.2	2.1
フィリピン	0.4	1.1	1.5	1.3	0.9	1.1		4.1	1.5
シンガポール	-0.8	-0.8	-0.6	-0.6	-0.8	-1.0		1.0	-0.5
台湾	0.3	0.5	0.1	0.8	2.4	2.0		1.2	-0.3
タイ	-0.8	-1.0	-0.9	-0.5	-0.5	-0.5		1.9	-0.9

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2014Q2	2014Q3	2014Q4	2015Q1	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2014	2015
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.1	-2.1	-2.2	-2.3	-2.4	-2.6	-2.7	-2.3	-2.7
日本	-0.1	-0.1	0.5	1.8	2.4	2.9	3.3	0.8	3.3
ユーロ圏	2.0	2.3	2.4	2.7	2.9	3.1	3.2	2.5	3.2
英国	-4.8	-5.0	-5.1	-5.3	-5.3	-5.0	-5.2	-5.1	-5.2
豪州	-3.6	-3.3	-2.9	-3.4	-5.2	-4.6	-5.2	-3.0	-4.6
カナダ	-2.5	-2.3	-2.3	-2.7	-3.0	-3.3	-3.3	-2.3	-3.3
エマージングアジア									
中国	1.5	1.8	2.7	3.3	3.3	3.1	3.1	2.7	3.1
香港	2.1	1.5	1.3	1.3	2.6	3.1	3.1	1.3	3.1
インド	-1.0	-1.2	-1.4	-1.3	-1.3	-1.2	-1.1	-1.4	-1.1
インドネシア	-3.2	-3.0	-3.1	-3.0	-2.5	-2.2	-2.1	-3.1	-2.1
韓国	6.2	6.1	6.0	6.7	7.0	7.7	7.7	6.0	7.7
マレーシア	5.7	5.3	4.4	3.5	2.7	2.5	3.0	4.4	3.0
フィリピン	3.1	3.6	3.8	4.2	3.8	2.9	2.9	3.8	2.9
シンガポール	17.9	18.5	17.4	19.1	19.4	19.2	19.7	17.4	19.7
台湾	11.9	11.9	12.2	13.3	13.3	14.3	14.6	12.2	14.6
タイ	2.6	2.2	3.8	4.5	6.0	7.9	8.1	3.8	8.1

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位: bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.25 - 0.50	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2015/12/17	25	2016/4/27	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2016/4/28	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2016/4/21	現状維持
英国	バンク・レート	0.50	緩和: 2007/12/6	5.75	2009/3/5	-50	2016/4/14	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	2.00	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/2/3	-25	2016/4/5	現状維持
カナダ	翌日物金利	0.50	緩和: 2015/7/15	1.00	2015/1/22	-25	2016/4/13	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
香港	基準貸出金利	0.50	緩和: 2007/9/19	6.75	2008/12/17	-100	2011/12/14	現状維持
インド	翌日物レポ金利	6.50	緩和: 2015/1/15	8.00	2016/4/5	-25	2016/4/5	-25bp
インドネシア	翌日物金利	6.75	緩和: 2015/2/17	7.75	2016/3/17	-25	2016/4/21	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.50	緩和: 2012/7/12	3.00	2015/6/11	-25	2016/4/19	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.25	引き締め: 2010/3/4	2.00	2014/7/10	+25	2016/3/9	現状維持
フィリピン	翌日物金利	4.00	引き締め: 2014/7/31	3.50	2014/9/11	+25	2016/3/23	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2016/3/23	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2014/3/17	-50	2014/12/23	現状維持

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行